

令和5年度実施

# 大阪府民の「健康と生活に関する調査」報告書

実施主体 大阪府こころの健康総合センター



# 目 次

1 調査目的	3
2 調査方法	
(1) 調査対象	3
(2) 調査期間	3
(3) 調査内容	3
(4) 調査票配布と回収方法	4
3 回収率および無効回答の定義	
(1) 回答必須項目の設定・回答者重複	4
(2) 回答ミスの取り扱い	4
4 年齢調整方法	5
5 報告書の表記および分析方法	5
(1) 報告書の表記	5
(2) 分析方法	5
6 調査にかかる検討会議	5
7 調査結果	
7.1 対象者の基本属性・背景情報	
(1) 回答者の性別・年齢	6
(2) 同居人数	7
(3) 職業	8
(4) 学歴	8
(5) 年収	9
7.2 ギャンブル等行動	
(1) ギャンブル等の経験(生涯、過去1年)	10
(2) 経験したギャンブル等の種類(生涯、過去1年)	12
(3) 公営競技等: 主な券の購入方法	13
(4) ギャンブル等開始年齢	14
(5) ギャンブル等に費やすお金	16
(6) ギャンブル等に関する相談先	18
(7) 家族や重要な他者のギャンブル等問題とその影響	19
7.3 「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計	
(1) SOGS(South Oaks Gambling Screen)による割合の推計	22
(2) PGSI(The Problem Gambling Severity Index)による割合の推計	25
7.4 「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル等行動	
(1) ギャンブル等依存が疑われる者-過去1年間で経験したギャンブル等の種類と頻度	27
(2) ギャンブル等依存が疑われる者の群とそうでない者の群の比較-公営競技等の主な券の購入方法	29

(3)ギャンブル等依存が疑われる者-過去1年間で最もお金を使ったギャンブル等の種類	30
(4)ギャンブル等依存が疑われる者-過去1年間で1か月あたりにギャンブル等にかけた金額	31
<b>7.5 「ギャンブル等依存が疑われる者」における「ギャンブル等関連問題」</b>	
(1)ギャンブル等問題と飲酒問題との関連	32
(2)ギャンブル等問題と喫煙との関連	33
(3)ギャンブル等問題と抑うつ、不安との関連	34
(4)ギャンブル等問題と希死念慮との関連	35
<b>7.6 「家族や重要な他者のギャンブル等問題のある(あった)者」と抑うつ、不安との関連</b>	
(1)「家族や重要な他者のギャンブル等問題のある(あった)者」と抑うつ、不安との関連	36
<b>7.7 ギャンブル等依存症に対する認識とギャンブル等依存症対策の認知度</b>	
(1)ギャンブル等依存症対策の認知度	37
(2)ギャンブル等依存症に対する認識	38
<b>8 調査結果のまとめ</b>	40

## 巻末資料

この報告書では、「ギャンブル等」および「ギャンブル等依存症」という用語を下記の意味で用いる。

「ギャンブル等」とは…金銭や品物などの財物を賭けて偶然性の要素が含まれる勝負を行い、その勝負の結果によって賭けた財物のやりとりを行う行為である。日本国内における競馬、競輪、競艇などの公営ギャンブルのほか、海外のギャンブル(カジノ、ブックメーカー等)や、違法ギャンブル(裏カジノ、賭け麻雀等)などが含まれる。パチンコ・パチスロも含む。

なお、本調査における具体的なギャンブル等の種類は、あらかじめ調査票にリストとして提示した上で、ギャンブル等に関連する質問を行った。下記に調査票より抜粋したギャンブル等の種類のリストを示す。

この調査では、下の(1)～(12)の種目をギャンブル等とした。

- (1) パチンコ
- (2) パチスロ
- (3) 競馬
- (4) 競輪
- (5) 競艇(ボートレース)
- (6) オートレース
- (7) 宝くじ(スクラッチ、ロト、ナンバーズ、ビンゴ5、着せかえクーちゃん、クイックワン等を含む)
- (8) スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)
- (9) インターネットを使ったギャンブル((3)～(8)で、券などの購入のためにインターネットを使ったものを除く)
- (10) 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事など業務で行うものは除く
- (11) 海外のカジノ ※実際の施設で行うもの
- (12) その他のギャンブル

「ギャンブル等依存症」とは…「ギャンブル等依存症対策基本法(以下、「基本法」という。)第2条において、ギャンブル等依存症とは、「ギャンブル等(法律の定めるところにより行われる公営競技、ぱちんこ屋に係る遊技その他の射幸行為をいう。)にのめり込むことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態」と定義している。本報告書では、基本法第2条に定める「ギャンブル等依存症」と、医学的疾患概念である「病的賭博(ICD10)」、「ギャンブル障害(DSM-5)」を同義として扱うこととする。

## 1 調査目的

この調査は、令和5年3月に策定された「第2期大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画」に基づいて、府民のみなさまのこころやからだの健康、生活習慣、ギャンブル等の参加状況等をお聞きし、ギャンブル等をはじめとした依存症対策を考えるための基礎資料とすることを目的として実施した。

## 2 調査方法

### (1) 調査対象

調査対象者は、大阪府の市区町村 72 地点に在住する満 18 歳以上の者から、層化二段無作為抽出法を用いて 18,000 人を抽出した。

### (2) 調査期間

令和 5 年 10 月 1 日～令和 5 年 10 月 31 日

### (3) 調査内容

調査票名：「健康と生活に関する調査」

調査項目

#### ① 基本属性・背景情報

性別、年齢、同居人数、職業、年収、学歴

#### ② ギャンブル等行動

- ・ 生涯・過去 1 年間のギャンブル等経験の有無
- ・ 生涯・過去 1 年間に経験したギャンブル等の種類、頻度、ギャンブル等に使う金額等

#### ③ ギャンブル等関連問題

- ・ 借金に関する質問
- ・ 希死念慮の有無
- ・ 抑うつ・不安のスクリーニングテスト(Kessler: K6)

#### ④ ギャンブル障害のスクリーニングテスト

- ・ SOGS、PGSI

#### <本調査で用いたギャンブル障害のスクリーニングテストの概要>

##### ◆ SOGS (South Oaks Gambling Screen)

アメリカのサウスオクス財団が開発した病的ギャンブラーを検出するための自記式スクリーニングテストである。原版の質問数は 16 問だが、点数にはならない質問が 4 問含まれている。ギャンブル障害に関する国内外の疫学調査で数多く採用されており、わが国では、2008 年、2013 年、2017 年の全国調査で用いられた。得点範囲は 0 点～20 点で、本報告書では、SOGS 合計得点が 5 点以上の者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。なお、3～4 点の者は「ギャンブル等依存に至るおそれがある者」とされている。なお、本報告書においては、3～4 点の者は、「ギャンブル等依存のリスクがある者」とする。

##### ◆ PGSI (The Problem Gambling Severity Index)

9 項目からなる自記式のスクリーニングテストで、地域住民を対象とした疫学調査で用いることを目的に開発された。得点範囲は 0 点～27 点で、本報告書では、PGSI で 8 点以上を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。なお、1～2 点の者は「低リスクギャンブラー」、3～7 点の者は「中等度問題ギャンブラー」とされている。

## ⑤ クロスアディクション

- ・ ギャンブル等問題と喫煙・アルコール問題(AUDIT-C)との関連

## ⑥ その他

- ・ ギャンブル等依存症に対する認識
- ・ ギャンブル等依存症対策の認知度
- ・ ギャンブル等問題に関する相談先
- ・ 重要な他者のギャンブル等問題の有無と、重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響等

## (4) 調査票配布と回収方法

調査票は、対象者の住民基本台帳に登録のある居住地宛に、回答案内(Web回答の案内を含む)と調査票、返送用封筒、ボールペンを送付した。

なお、回答方法は、下記いずれかを調査対象者が任意に選択できる形式とした。

- ① 紙の調査票に回答して返送する形式(郵送回答)
- ② インターネット経由でWeb回答する形式(Web回答)

## 3 回収率および無効回答の定義

総回収数は6,639票(郵送回答:4,932票、Web回答:1,707票)、回収率は36.9%であった。有効票は6,616票(郵送回答:4,913票、Web回答:1,703票)、有効回答率は36.8%であった。以下に該当した23票は無効票とした。

### (1) 回答必須項目の設定・回答者重複

調査票が白紙の状態で見送されてきたもの等、ほとんどの設問に回答されていない場合は、無効票とした。Web回答では、郵送回答と重複とみられるものは無効票とした。

### (2) 回答ミスの取り扱い

#### ア 単一選択設問に複数選択している場合

単一選択すべき設問に、複数選択している場合は、原則不適切回答として集計から除外することとした。ただし、下記の場合は、有効回答として集計対象に含めることとした。

- ・ 例:「答えたくない」とそれ以外の選択肢を選択している場合、それ以外の選択肢を優先

#### イ 数値を答える質問における異常値

年齢や金額等について、選択肢ではなく数値を回答する設問では、論理的に説明が付かない数値や、社会常識から想定されない数値等の場合は異常値とみなし、集計から除外することとした。

#### ウ 設問間の矛盾

関連性のある複数の設問間で矛盾する内容の回答をしている場合は、質問ごとに、下記のいずれかの処理を実施することとした。

- ・ 不適切回答として集計の対象外とする。
- ・ どちらかの設問を正とし、もう片方の設問を訂正して集計対象とする。

## 4 年齢調整方法

「ギャンブル等依存が疑われる者の割合の推計」にあたり、本調査で得られたSOGS得点およびPGSI得点の分布について、年齢階級ごとの回答者数の偏りを人口で補正し、「年齢調整後の割合」を算出した。

年齢調整方法は、20歳以上の回答者については、令和2年10月1日現在人口<sup>1</sup>を基準として、性別・年齢階級別(5歳区分)、直接法にて年齢調整を実施した。また、18～19歳の回答者は、同様の令和2年国勢調査人口等基本集計を基準として、18～19歳を1区分、性別、直接法にて年齢調整を実施した。

## 5 報告書の表記および分析方法

### (1) 報告書の表記

- ・集計結果は、小数点第2位を四捨五入しており、表記値と計算値との演算誤差が生じることがあるため、回答比率の合計が100.0%とならないことがある。
- ・図中の「n」は集計対象者数(あるいは、分類別の該当対象者数)を示し、各選択肢の回答比率は「n」を集計母数として算出した。

### (2) 分析方法

一部の質問結果の解析には、男女差、およびSOGS得点による「ギャンブル等依存が疑われる者」とそうでない者における傾向の違いを検証するために、 $\chi^2$  検定を用いた。

## 6 調査にかかる検討会議

本調査の調査手法及び調査票の設計、結果の分析及び解釈等について検討し、事務局(大阪府こころの健康総合センター)に助言するための会議を、以下により開催した。

- 会議名:「健康と生活に関する調査」検討会議
- 開催状況:下表のとおり
- 委員名簿:巻末資料「(1)「健康と生活に関する調査」検討会議委員名簿(五十音順 敬称略)」

参照

回数	開催日	開催方法	議事
第1回	令和5年7月19日(水)	オンライン	(1)「健康と生活に関する調査」の調査(案)について (2)その他
第2回	令和6年2月1日(木)	オンライン	(1)「健康と生活に関する調査」集計の分析について (2)その他
第3回	令和6年2月20日(火)	オンライン	(1)「健康と生活に関する調査」集計の分析・まとめについて (2)今後の実態調査について (3)その他

<sup>1</sup> 総務省統計局 人口推計 各年10月1日現在人口 2020年版

## 7 調査結果

以下、「健康と生活に関する調査」調査票の設問ごとに結果の概要を示す。

結果の見方の留意点：質問によって集計対象の総サンプル数が有効票(6,616票)と異なる場合がある。その際は図表の下に集計したサンプル数や除外理由を示した。また、質問には、調査対象者全員に尋ねる質問と、選んだ選択肢によって一部の該当者のみ答える質問がある。

### 7.1 対象者の基本属性・背景情報

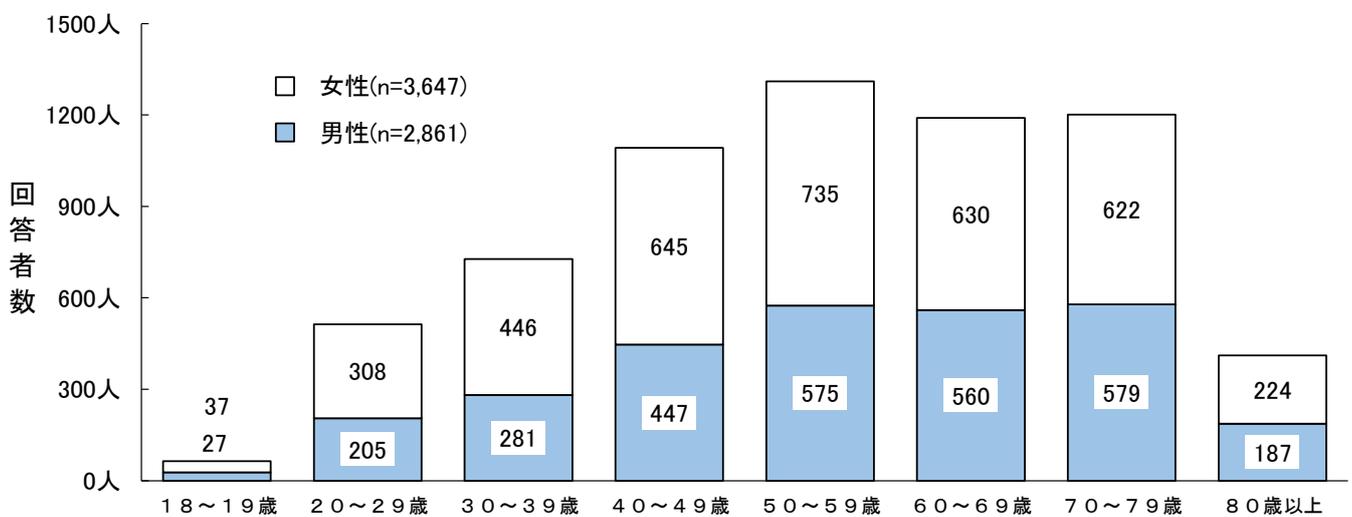
#### (1) 回答者の性別・年齢

【問1】 あなたの性別を教えてください。(単一選択)

【問2】 あなたの年齢を教えてください。(単一選択)

男性が2,861名(44.0%)、女性が3,647名(56.0%)で、男性の平均年齢は56.4歳(標準偏差16.8歳)、女性の平均年齢は54.2歳(標準偏差17.1歳)であった。総務省統計局人口推計令和2年10月1日人口<sup>2</sup>より算出した大阪府の性別人口比、年齢階級別人口比と比べて50～70歳代の分布が多かった。(図表1)

図表1 回答者の性別・年齢



※問1 集計から除外：その他、答えたくない、無回答(n=78)

※問2 集計から除外：無回答(n=50)

<sup>2</sup> 総務省統計局人口推計各年10月1日現在人口2020年版

## (2)同居人数

**【問3】【同居人数】 現在のお住まいと一緒に暮らしている方は、あなたご自身を含めて何人いますか。**

同居人数について、1人(17.0%)、2人(34.4%)、3人(23.1%)、4人(17.8%)であった。(図表2)

参考値:直近の国勢調査による大阪府の一般世帯の世帯人員の割合<sup>3</sup>は、1人(41.8%)、2人(27.2%)、3人(15.5%)、4人(11.4%)、5人(3.2%)、6人(0.7%)、7人以上(0.2%)であった。

図表2 同居人数

		n	同居人数(本人含む)										
			1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	
全体		人数 割合	6,565 (100.0%)	1,117 (17.0%)	2,257 (34.4%)	1,516 (23.1%)	1,170 (17.8%)	377 (5.7%)	80 (1.2%)	30 (0.5%)	14 (0.2%)	1 (0.0%)	3 (0.0%)
性別	男性	人数 割合	2,850 (100.0%)	467 (16.4%)	1,012 (35.5%)	667 (23.4%)	503 (17.6%)	149 (5.2%)	32 (1.1%)	13 (0.5%)	6 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)
	女性	人数 割合	3,655 (100.0%)	641 (17.5%)	1,231 (33.7%)	830 (22.7%)	653 (17.9%)	225 (6.2%)	47 (1.3%)	17 (0.5%)	8 (0.2%)	1 (0.0%)	2 (0.1%)

※問3 集計から除外:無回答(n=51)

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=60)は掲載していないため、全体値と一致しない。

<sup>3</sup> 「令和2年国勢調査結果」(総務省統計局)

### (3) 職業

#### 【問4】【職業】現在のあなたの職業を教えてください。(単一選択)

男性の就業者では「正社員・正職員」42.6%、「自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)」13.9%、「契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト」12.8%の順で回答した割合が高かった。非就業者では「無職(退職者、今後就業予定のない)」が22.2%であった。女性の就業者では、「契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト」27.7%、「正社員・正職員」23.7%であった。「専業主婦」は26.1%であった。(図表3)

図表3 職業

		n	職業								
			自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)	勤め(正社員・正職員)	勤め(契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト)	学生	家事専業(専業主婦・専業主夫)	無職(求職中、失業中、進路未定を含む)	無職(退職者、今後就業予定はない)	その他	
全体	人数 割合	6,559 (100.0%)	647 (9.9%)	2,104 (32.1%)	1,389 (21.2%)	170 (2.6%)	966 (14.7%)	222 (3.4%)	963 (14.7%)	98 (1.5%)	
性別	男性	人数 割合	2,850 (100.0%)	396 (13.9%)	1,213 (42.6%)	364 (12.8%)	80 (2.8%)	11 (0.4%)	109 (3.8%)	632 (22.2%)	45 (1.6%)
	女性	人数 割合	3,649 (100.0%)	247 (6.8%)	866 (23.7%)	1,011 (27.7%)	87 (2.4%)	952 (26.1%)	107 (2.9%)	328 (9.0%)	51 (1.4%)

※問4 集計から除外:無回答(n=57)

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=60)は掲載していないため、全体値と一致しない。

### (4) 学歴

#### 【問6】【最終学歴】あなたの最終学歴を教えてください。(単一選択)

男性では「大学卒業」37.1%、「高校・高専卒業」32.3%、女性では「高校・高専卒業」30.3%、「短大・専門学校卒業」29.3%と回答した割合が高かった。(図表4)

図表4 最終学歴

		n	職業										
			中学校卒業	高校・高専中退	高校・高専卒業	短大・専門学校中退	短大・専門学校卒業	大学中退	大学卒業	大学院中退	大学院修了	その他	
全体	人数 割合	6,577 (100.0%)	494 (7.5%)	284 (4.3%)	2,050 (31.2%)	126 (1.9%)	1,335 (20.3%)	117 (1.8%)	1,919 (29.2%)	13 (0.2%)	207 (3.1%)	32 (0.5%)	
性別	男性	人数 割合	2,858 (100.0%)	220 (7.7%)	120 (4.2%)	923 (32.3%)	29 (1.0%)	254 (8.9%)	90 (3.1%)	1,059 (37.1%)	12 (0.4%)	137 (4.8%)	14 (0.5%)
	女性	人数 割合	3,658 (100.0%)	271 (7.4%)	161 (4.4%)	1,110 (30.3%)	93 (2.5%)	1,070 (29.3%)	25 (0.7%)	845 (23.1%)	1 (0.0%)	67 (1.8%)	15 (0.4%)

※問6 集計から除外:無回答(n=39)

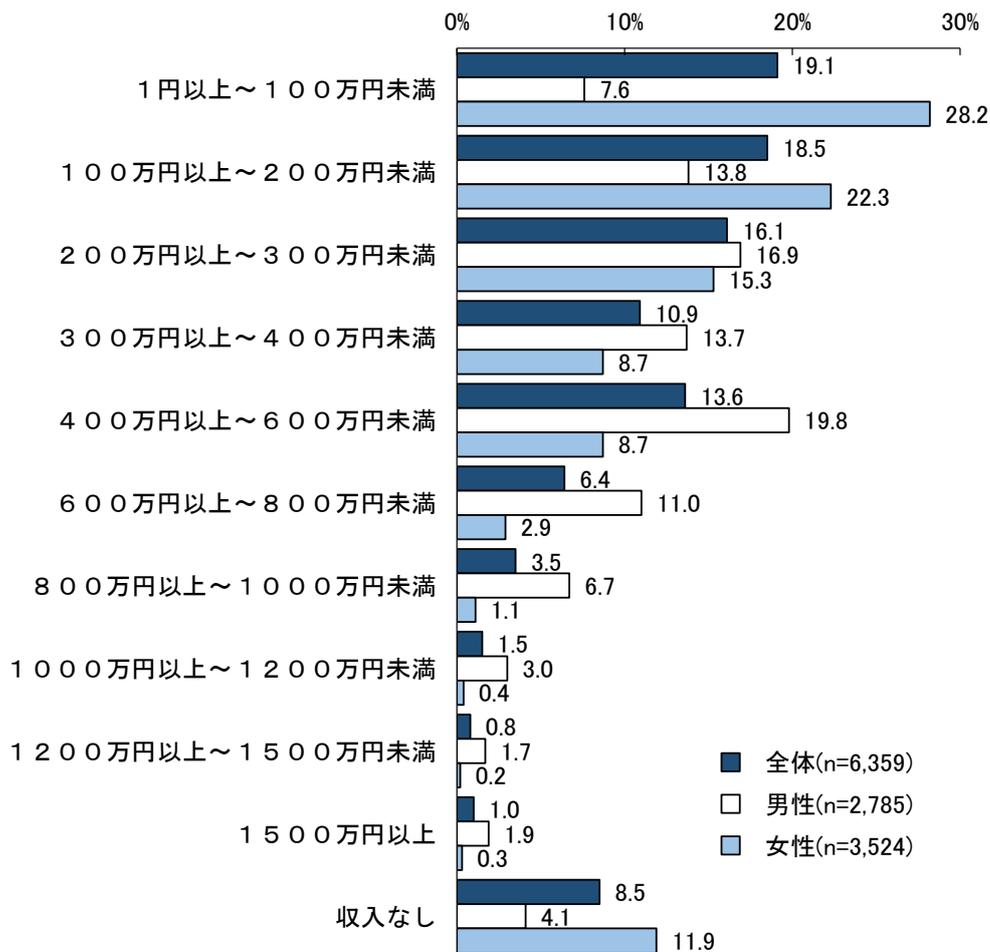
※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=61)は掲載していないため、全体値と一致しない。

## (5) 年収

**【問5】【税込み年収】 あなたの税込み年収は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。(単一選択)**

男性では「400万円以上～600万円未満」19.8%、「200万円以上～300万円未満」16.9%、女性では「1円以上～100万円未満」28.2%と回答した割合が高かった。(図表5)

図表5 年収



※問5 集計から除外: 無回答(n=139)、わからない(n=118)

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=50)は掲載していないため、全体値と一致しない。

## 7.2 ギャンブル等行動

### (1) ギャンブル等の経験(生涯、過去1年)

#### 【問13】 あなたはこれまでギャンブル等をしたことがありますか。(複数選択)

ギャンブル等を生涯において経験したことがあると回答した割合(生涯ギャンブル等経験あり)は、全体の75.1%(男性の87.1%、女性の65.8%)であった。過去1年間にギャンブル等を経験した割合は、全体の34.2%(男性の47.8%、女性の23.6%)であった(図表6・図表7)。年代別で見ると、生涯ギャンブル等経験率が高いのは、50～59歳(84.4%)であった。さらに、年代別の過去1年でのギャンブル等経験率が最も高かったのも、50～59歳(41.1%)であった(図表8)。

図表6 ギャンブル等経験の有無(生涯、過去1年)

生涯ギャンブル等経験なし	生涯ギャンブル等経験あり		
	1,646人 (24.9%)	4,970人 (75.1%)	
		過去1年ギャンブル等経験あり	過去1年ギャンブル等経験なし
	2,262人 (34.2%)	2,708人 (40.9%)	

※【問13】に無回答の者(n=326)は、「生涯ギャンブル等経験なし」として扱った。

※(%)はn=6616 における割合

図表7 性別ギャンブル等経験率(生涯、過去1年)

		n	生涯ギャンブル等経験あり	過去1年ギャンブル等経験あり
性別	全体	6,616	4,970 (75.1%)	2,262 (34.2%)
	男性	2,866	2,496 (87.1%)	1,370 (47.8%)
	女性	3,672	2,418 (65.8%)	865 (23.6%)
	その他・答えたくない	50	33 (66.0%)	18 (36.0%)

※【問13】に無回答の者(n=326)は、「生涯ギャンブル等経験なし」として扱った。

※(%)は各性別の有効票に占める割合

※問1 無回答の者(n=28)は掲載していないため、全体値と一致しない。

図表8 年代別ギャンブル等経験率(生涯、過去1年)

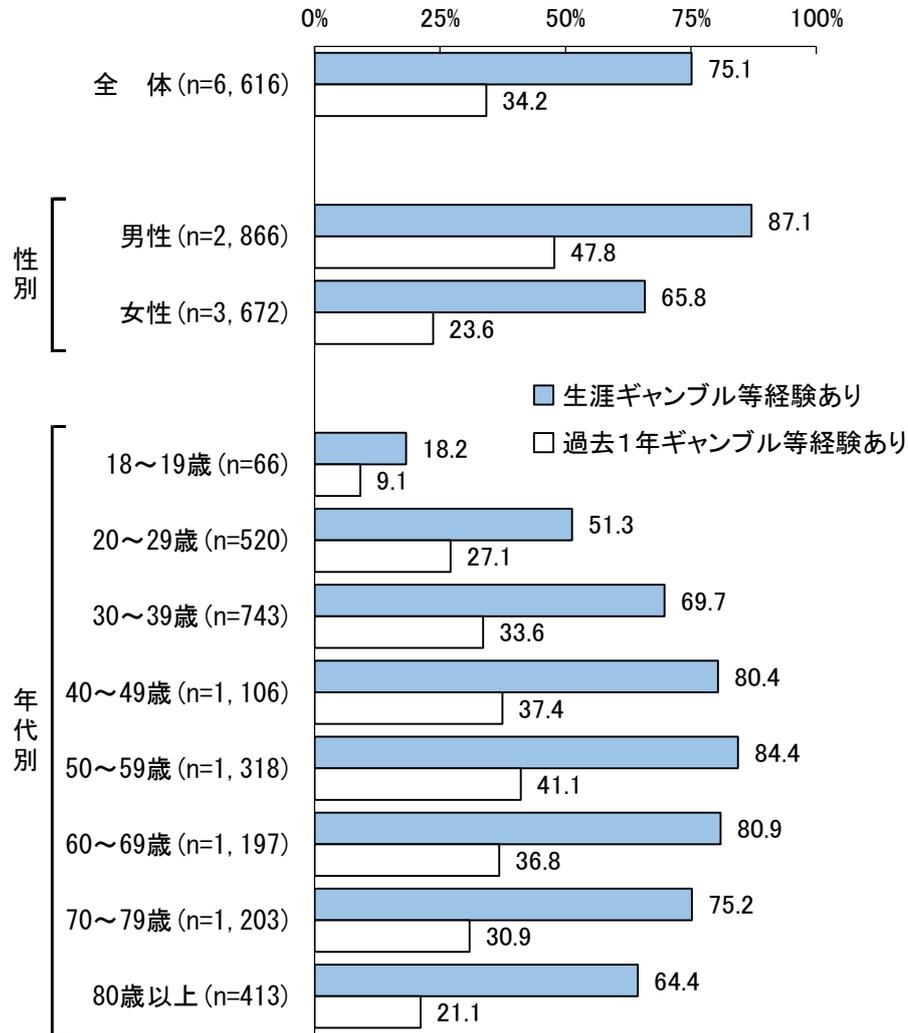
		n	生涯ギャンブル等経験あり	過去1年ギャンブル等経験あり
年代別	全体	6,616	4,970 (75.1%)	2,262 (34.2%)
	18～19歳	66	12 (18.2%)	6 (9.1%)
	20～29歳	520	267 (51.3%)	141 (27.1%)
	30～39歳	743	518 (69.7%)	250 (33.6%)
	40～49歳	1,106	889 (80.4%)	414 (37.4%)
	50～59歳	1,318	1,112 (84.4%)	542 (41.1%)
	60～69歳	1,197	968 (80.9%)	440 (36.8%)
	70～79歳	1,203	905 (75.2%)	372 (30.9%)
	80歳以上	413	266 (64.4%)	87 (21.1%)

※【問13】に無回答の者(n=326)は、「生涯ギャンブル等経験なし」として扱った。

※(%)は各年代の有効票に占める割合

※問2 無回答の者(n=50)は掲載していないため、全体値と一致しない。

図表9 ギャンブル等経験率(生涯、過去1年)



※【問13】に無回答の者 (n=326) は、「生涯ギャンブル等経験なし」として扱った。

※全体の (%) は n=6616 における割合

※性別の (%) は各性別の有効票に占める割合

※年代別の (%) は、各年代の有効票に占める割合

## (2) 経験したギャンブル等の種類(生涯、過去1年)

【問14】 【問13】で、回答されたギャンブル等について、過去1年間ほどのくらいの頻度で行っていましたか。

(各項目単一選択)

### 【経験したギャンブル等の種類(生涯、過去1年)と過去1年間の実施頻度】

生涯で経験したギャンブル等の種類は、「宝くじ(スクラッチ、ロト、ナンバーズ、ビンゴ5、着せかえクーちゃん、クイックワン等を含む)」(以下「宝くじ(スクラッチ、ロト等)」)という67.3%、「パチンコ」50.4%、「競馬」34.5%、「パチスロ」19.6%の順で割合が高かった。(図表10-1)

各種ギャンブル等のうち、「過去1年間に経験した」と回答した人数が多いのは、「宝くじ(スクラッチ、ロト等)」(n=1,538)、「パチンコ」(n=530)、「競馬」(n=505)であった。

なお、各種ギャンブル等について、生涯に1度以上経験があると回答した者が、過去1年間に当該ギャンブル等を実施している割合を算出したところ、「証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX」50.6%、「インターネットを使ったギャンブル(競馬・競輪・競艇・オートレース・宝くじ・スポーツ振興くじで、券などの購入のためにインターネットを使ったものを除く)」(以下、「インターネットを使ったギャンブル」という)47.5%、「スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)」37.6%、「宝くじ(スクラッチ、ロト等)」36.4%の順で高かった。

また、ギャンブル等の種類ごとに、過去1年間における実施頻度を尋ねたところ、週1回以上実施したと回答した人数が多いのは、「宝くじ(スクラッチ、ロト等)」(n=208)、「パチンコ」(n=180)、「競馬」(n=129)、「証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX」(n=81)であった。(図表10-2)

図表10-1 経験したギャンブル等の種類(生涯)

ギャンブル 生涯経験あり	人数 割合	ギャンブル等の種類													※ 上記の いずれも したことは ない
		n	パチンコ	パチスロ	競馬★	競輪★	競艇(ボートレース)★	オートレース★	宝くじ(スクラッチ、ロト、ナンバーズ、ビンゴ5、着せかえクーちゃん、クイックワン等を含む)★	スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)★	インターネットを使ったギャンブル(競馬・競輪・競艇・オートレース・宝くじ・スポーツ振興くじで、券などの購入のためにインターネットを使ったものを除く)	証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX※仕事など業務で行うものは除く	海外のカジノ ※実際の施設で行うもの	その他のギャンブル	
		4,970	3,168	1,234	2,172	246	515	56	4,231	680	61	524	430	46	1,320
		(79.0%)	(50.4%)	(19.6%)	(34.5%)	(3.9%)	(8.2%)	(0.9%)	(67.3%)	(10.8%)	(1.0%)	(8.3%)	(6.8%)	(0.7%)	(21.0%)

※集計から除外:問13無回答(n=326)

※(%)は、「上記のいずれもしたことはない」を含めた人数(6,290名)に対する割合

図表10-2 経験したギャンブル等の過去1年間の頻度

	n	過去1年間の経験の有無(生涯経験ある者における割合)				
		経験あり		経験なし	無回答	
		週1回以上	週1回未満			
パチンコ	3,168	530 (16.7%)	180 (5.7%)	350 (11.0%)	2,506 (79.1%)	132 (4.2%)
パチスロ	1,234	287 (23.3%)	70 (5.7%)	217 (17.6%)	915 (74.1%)	32 (2.6%)
競馬★	2,172	505 (23.3%)	129 (5.9%)	376 (17.3%)	1,538 (70.8%)	129 (5.9%)
競輪★	246	49 (19.9%)	17 (6.9%)	32 (13.0%)	184 (74.8%)	13 (5.3%)
競艇(ボートレース)★	515	107 (20.8%)	23 (4.5%)	84 (16.3%)	377 (73.2%)	31 (6.0%)
オートレース★	56	14 (25.0%)	5 (8.9%)	9 (16.1%)	38 (67.9%)	4 (7.1%)
宝くじ(スクラッチ、ロト、ナンバーズ、ビンゴ5、着せかえクーちゃん、クイックワン等を含む)★	4,231	1,538 (36.4%)	208 (4.9%)	1,330 (31.4%)	2,427 (57.4%)	266 (6.3%)
スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)★	680	256 (37.6%)	44 (6.5%)	212 (31.2%)	391 (57.5%)	33 (4.9%)
インターネットを使ったギャンブル(★印のギャンブル等で、券などの購入のためにインターネットを使ったものを除く)	61	29 (47.5%)	10 (16.4%)	19 (31.1%)	23 (37.7%)	9 (14.8%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX※仕事など業務で行うものは除く	524	265 (50.6%)	81 (15.5%)	184 (35.1%)	233 (44.5%)	26 (5.0%)
海外のカジノ ※実際の施設で行うもの	430	16 (3.7%)	4 (0.9%)	12 (2.8%)	395 (91.9%)	19 (4.4%)
その他のギャンブル	46	13 (28.3%)	4 (8.7%)	9 (19.6%)	25 (54.3%)	8 (17.4%)

### (3) 公営競技等: 主な券の購入方法

【問15】 【問14】で競馬、競輪、競艇(ボートレース)、オートレース、宝くじ(スクラッチ、ロト、ナンバーズ、ビンゴ5、着せかえクーちゃん、クイックワン等を含む)、スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)を過去1年間にしたことがあると回答した方にお尋ねします。

過去1年間で、主にどこで券を購入しましたか。ギャンブル等ごとに、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(各項目単一選択)

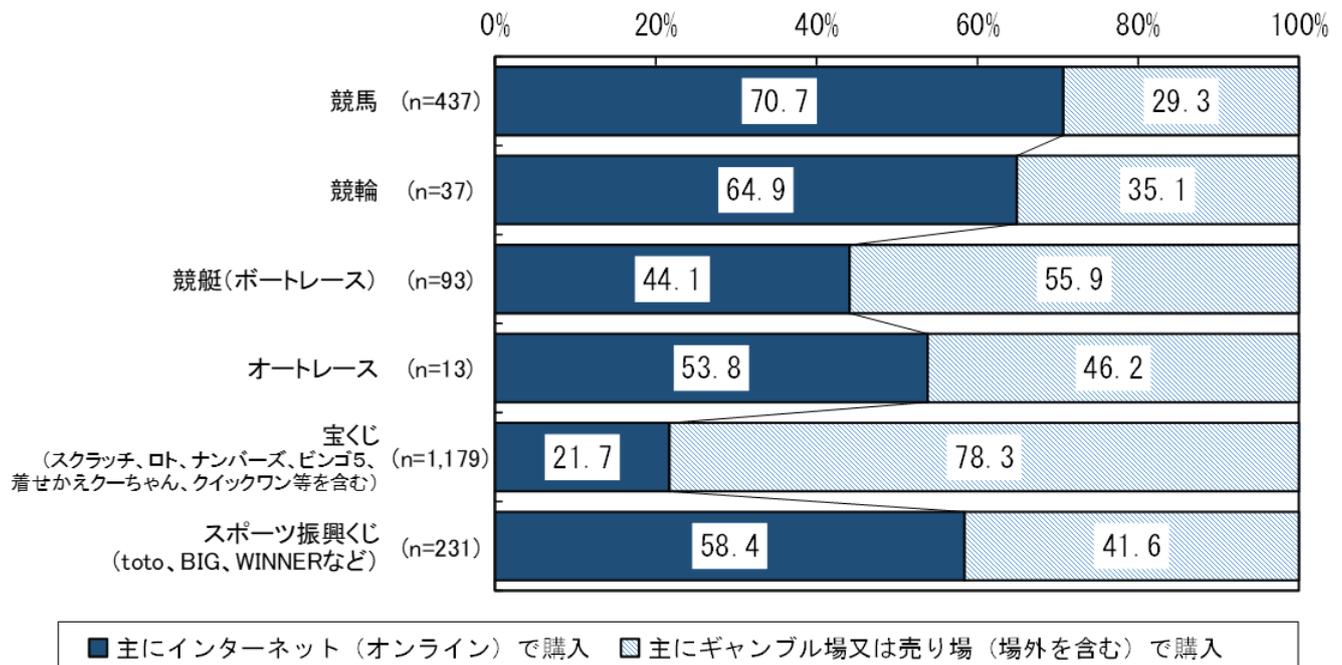
【問14】で競馬、競輪、競艇(ボートレース)、オートレース、宝くじ(スクラッチ、ロト等)、スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)の経験が過去1年間に「週1回未満」または「週1回以上」と回答した者を対象に集計した。

「主にインターネット(オンライン)」で券を購入するのは競馬(70.7%)、競輪(64.9%)が高く、オートレース、スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)も過半数であった。「主にギャンブル場又は売り場(場外を含む)」で券を購入するのは宝くじ(スクラッチ、ロト等)が78.3%が高く、競艇(ボートレース)も過半数であった。(図表11-1・図表11-2)

図表11-1 公営競技等の主な券の購入方法(過去1年)

ギャンブルの種類	n	主にインターネット(オンライン)で購入	主にギャンブル場又は売り場(場外を含む)で購入
競馬	437	309 (70.7%)	128 (29.3%)
競輪	37	24 (64.9%)	13 (35.1%)
競艇(ボートレース)	93	41 (44.1%)	52 (55.9%)
オートレース	13	7 (53.8%)	6 (46.2%)
宝くじ(スクラッチ、ロト、ナンバーズ、ビンゴ5、着せかえクーちゃん、クイックワン等を含む)	1,179	256 (21.7%)	923 (78.3%)
スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)	231	135 (58.4%)	96 (41.6%)

図表11-2 公営競技等の主な券の購入方法(過去1年)



※【問15】に無回答は集計から除外: 競馬(n=68)、競輪(n=12)、競艇(n=14)、オートレース(n=1)、宝くじ(スクラッチ、ロト等)(n=359)、スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)(n=25)

#### (4)ギャンブル等開始年齢

##### 【問16】初めてギャンブル等をしたのは何歳でしたか。

全体の57.6%(男性52.8%、女性63.7%)が20歳代と回答した。20歳未満の年齢を回答したのは、女性の15.1%に対し、男性は42.9%であり、男性の方が低い年齢でギャンブル等を経験している割合が高かった。(図表12-1)

図表12-1 初めてギャンブル等をした年代

		n	年代区分									
			0 ～ 9 歳	10 ～ 19 歳	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 ～ 79 歳	80 歳 以上	
全体	人数 割合	4,406 (100.0%)	19 (0.4%)	1,322 (30.0%)	2,537 (57.6%)	292 (6.6%)	131 (3.0%)	64 (1.5%)	32 (0.7%)	9 (0.2%)	0 (0.0%)	
性別	男性	人数 割合	2,392 (100.0%)	6 (0.3%)	1,018 (42.6%)	1,263 (52.8%)	69 (2.9%)	18 (0.8%)	11 (0.5%)	6 (0.3%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)
	女性	人数 割合	1,967 (100.0%)	12 (0.6%)	286 (14.5%)	1,252 (63.7%)	219 (11.1%)	111 (5.6%)	53 (2.7%)	26 (1.3%)	8 (0.4%)	0 (0.0%)

※問16 集計から除外:条件分岐(問13でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、無回答(n=563)、回答矛盾(n=1)(問2の年齢より大きい数値を回答)

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=47)は掲載していないため、全体値と一致しない。

初めてギャンブル等をした年代の中で、特に人数が多かった10～19歳、20～29歳について、各年齢の人数について詳細を見ると、男女とも、20歳が最多(男性33.7%、女性28.1%)で、次いで男性では18歳(28.0%)、女性では25歳(10.1%)が多かった。(図表12-2)

図表12-2 初めてギャンブル等をした年齢(10歳代、20歳代の詳細)

		n	年齢区分										
			10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	
全体	人数 割合	3,858 (87.6%)	23 (0.5%)	4 (0.1%)	17 (0.4%)	8 (0.2%)	16 (0.4%)	48 (1.1%)	118 (2.7%)	63 (1.4%)	849 (19.3%)	176 (4.0%)	
性別	男性	人数 割合	2,280 (95.3%)	12 (0.5%)	2 (0.1%)	13 (0.5%)	4 (0.2%)	14 (0.6%)	36 (1.5%)	100 (4.2%)	51 (2.1%)	670 (28.0%)	116 (4.8%)
	女性	人数 割合	1,538 (78.2%)	10 (0.5%)	2 (0.1%)	4 (0.2%)	3 (0.2%)	2 (0.1%)	11 (0.6%)	18 (0.9%)	12 (0.6%)	168 (8.5%)	56 (2.8%)

		n	年齢区分										
			20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	
全体	人数 割合	3,858 (87.6%)	1,371 (31.1%)	199 (4.5%)	225 (5.1%)	145 (3.3%)	105 (2.4%)	324 (7.4%)	59 (1.3%)	40 (0.9%)	51 (1.2%)	17 (0.4%)	
性別	男性	人数 割合	2,280 (95.3%)	805 (33.7%)	99 (4.1%)	99 (4.1%)	49 (2.0%)	34 (1.4%)	123 (5.1%)	18 (0.8%)	16 (0.7%)	16 (0.7%)	3 (0.1%)
	女性	人数 割合	1,538 (78.2%)	553 (28.1%)	100 (5.1%)	121 (6.2%)	95 (4.8%)	71 (3.6%)	199 (10.1%)	41 (2.1%)	24 (1.2%)	34 (1.7%)	14 (0.7%)

※(%)は、全年代の人数(全体4,406名、男性2,392名、女性1,967名)に対する割合

**【問17】 あなたが、少なくとも月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブル等をするようになったのは何歳でしたか。**

【問13】で、いずれかのギャンブル等を経験したことがある(生涯ギャンブル等経験あり)と回答した者を対象に、習慣的なギャンブル等を開始した年齢を尋ねた。男性・女性ともに20歳代に習慣的なギャンブル等を開始した割合が最も高かった(男性32.7%、女性9.1%)。(図表13-1)

**図表13-1 習慣的にギャンブル等をするようになった年代**

		n	年代区分									※ なしギ 慣的 コン プに は を	
			0 ～ 9 歳	10 ～ 19 歳	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 ～ 79 歳	80 歳 以上		
全体	人数 割合	1,771 (40.7%)	0 (0.0%)	389 (8.9%)	950 (21.8%)	209 (4.8%)	105 (2.4%)	71 (1.6%)	41 (0.9%)	6 (0.1%)	0 (0.0%)	2,585 (59.3%)	
性別	男性	人数 割合	1,380 (59.3%)	0 (0.0%)	359 (15.4%)	762 (32.7%)	134 (5.8%)	59 (2.5%)	38 (1.6%)	24 (1.0%)	4 (0.2%)	0 (0.0%)	949 (40.7%)
	女性	人数 割合	374 (18.9%)	0 (0.0%)	26 (1.3%)	180 (9.1%)	70 (3.5%)	46 (2.3%)	33 (1.7%)	17 (0.9%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	1,607 (81.1%)

※問17 集計から除外:条件分岐(問13でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、無回答(n=608)、回答矛盾(n=6)(問2の年齢より大きい数値を回答、問16の年齢より小さい数値を回答)

※(%)は、「習慣的にギャンブル等をしたことはない」を含めた人数(全体4,356名、男性2,329名、女性1,981名)に対する割合

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=17)は掲載していないため、全体値と一致しない。

習慣的にギャンブル等をするようになった年代の中で、特に人数が多かった10～19歳、20～29歳について、各年齢の人数について詳細を見ると、20歳が最多(全体10.7%)で、18歳が次いで多かった(全体6.4%)。(図表13-2)

**図表13-2 習慣的にギャンブル等をするようになった年齢(10歳代・20歳代の詳細)**

		n	年齢区分									
			10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
全体	人数 割合	1,338 (30.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (0.1%)	35 (0.8%)	10 (0.2%)	278 (6.4%)	61 (1.4%)
性別	男性	人数 割合	1,121 (48.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (0.2%)	33 (1.4%)	10 (0.4%)	256 (11.0%)	56 (2.4%)
	女性	人数 割合	205 (10.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	19 (1.0%)	4 (0.2%)

		n	年齢区分										
			20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	
全体	人数 割合	1,338 (30.7%)	465 (10.7%)	65 (1.5%)	86 (2.0%)	47 (1.1%)	45 (1.0%)	138 (3.2%)	40 (0.9%)	20 (0.5%)	36 (0.8%)	8 (0.2%)	
性別	男性	人数 割合	1,121 (48.1%)	403 (17.3%)	52 (2.2%)	71 (3.0%)	36 (1.5%)	33 (1.4%)	99 (4.3%)	26 (1.1%)	12 (0.5%)	27 (1.2%)	3 (0.1%)
	女性	人数 割合	205 (10.3%)	57 (2.9%)	13 (0.7%)	15 (0.8%)	11 (0.6%)	11 (0.6%)	37 (1.9%)	14 (0.7%)	8 (0.4%)	9 (0.5%)	5 (0.3%)

※(%)は、「習慣的にギャンブル等をしたことはない」を含めた人数(全体4,356名、男性2,329名、女性1,981名)に対する割合

## (5)ギャンブル等に費やすお金

### 【過去1年間で最もお金を使ったギャンブル等の種類】

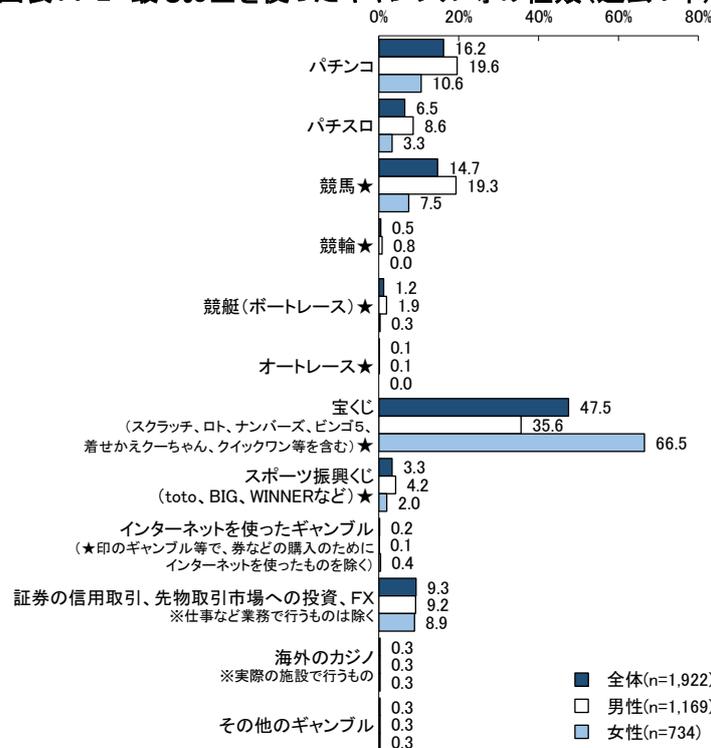
#### 【問18】 過去1年間で、最もお金を使った(つぎ込んだ)ギャンブル等はどれですか。(単一選択)

過去1年間にギャンブル等の経験がある者の中で、最もお金を使ったギャンブル等の種類は、宝くじ(スクラッチ、ロト等)(47.5%)が最も多く、次いでパチンコ(16.2%)であった。(図表14-1・図表14-2)

図表14-1 最もお金を使ったギャンブル等の種類(過去1年)

		n	ギャンブル等の種類											
			パチンコ	パチスロ	競馬★	競輪★	競艇(ボートレース)★	オートレース★	宝くじ(スクラッチ、ロト、ナンバーズ、ビンゴ5、クイックワン等を含む)★	G、W、WINNERなど)★	スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)★	インターネットを使ったギャンブル(★印のギャンブル等で、券などの購入のためにインターネットを使ったものを除く)	証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事など業務で行うものは除く	海外のカジノ ※実際の施設で行うもの
全体	人数 割合	1,922 (100.0%)	311 (16.2%)	124 (6.5%)	282 (14.7%)	9 (0.5%)	24 (1.2%)	1 (0.1%)	913 (47.5%)	64 (3.3%)	4 (0.2%)	178 (9.3%)	6 (0.3%)	6 (0.3%)
性別	男性	1,169 (100.0%)	229 (19.6%)	100 (8.6%)	226 (19.3%)	9 (0.8%)	22 (1.9%)	1 (0.1%)	416 (35.6%)	49 (4.2%)	1 (0.1%)	108 (9.2%)	4 (0.3%)	4 (0.3%)
	女性	734 (100.0%)	78 (10.6%)	24 (3.3%)	55 (7.5%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	0 (0.0%)	488 (66.5%)	15 (2.0%)	3 (0.4%)	65 (8.9%)	2 (0.3%)	2 (0.3%)

図表14-2 最もお金を使ったギャンブル等の種類(過去1年)



※問18 集計から除外:条件分岐(問13でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、設問間矛盾(n=719)(問18で選択しているギャンブルの種類につき問14で回答なし)、無回答(n=639)、選択肢13「過去1年間はギャンブル等を全くしていない」(n=1,690)  
 ※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=19)は掲載していないため、全体値と一致しない。

【過去1年間でギャンブル等に使った金額】

【問19】 過去1年間、1か月あたりギャンブル等にどのくらいお金をかけていますか。勝ったお金は含めずにお答えください。

1か月あたりギャンブル等に使用する金額は、0円の回答を含めない場合、男性は1万円以上5万円未満が最も多く(21.0%)、女性は2千円以上5万円未満が最も多かった(10.8%)。月に1円以上ギャンブル等にかける場合の金額の中央値は男性が10,000円/月、女性が3,500円/月、平均値は男性が285,955円/月、女性が59,555円/月であった。(図表15-1、図表15-2)

図表15-1 ギャンブル等にかけている金額(1か月あたり、勝ったお金は含めず)(過去1年)

		n	金額								
			0円	1円以上 2千円未満	2千円以上 5千円未満	5千円以上 1万円未満	1万円以上 5万円未満	5万円以上 10万円未満	10万円以上 50万円未満	50万円以上	
全体	人数 割合	4,331 (100.0%)	2,257 (52.1%)	328 (7.6%)	412 (9.5%)	249 (5.7%)	690 (15.9%)	155 (3.6%)	141 (3.3%)	99 (2.3%)	
性別	男性	人数 割合	2,251 (100.0%)	998 (44.3%)	135 (6.0%)	187 (8.3%)	142 (6.3%)	473 (21.0%)	130 (5.8%)	113 (5.0%)	73 (3.2%)
	女性	人数 割合	2,033 (100.0%)	1,234 (60.7%)	193 (9.5%)	220 (10.8%)	103 (5.1%)	210 (10.3%)	25 (1.2%)	25 (1.2%)	23 (1.1%)

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=47)は掲載していないため、全体値と一致しない。

図表15-2 ギャンブル等にかけている金額(1か月あたり、勝ったお金は含めず)(過去1年)

単位: 1か月あたりの金額(円)

金額	男性	女性	全体
最小値	2	3	2
第一四分位数	4,000	2,000	3,000
中央値	10,000	3,500	10,000
第三四分位数	50,000	10,000	30,000
最大値	50,000,000	5,000,000	50,000,000
平均値	285,955	59,555	203,698

※1か月に1円以上かける回答者での集計

※問19 集計から除外: 質問分岐(問13でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、設問間矛盾(n=108)(問18で過去1年間ギャンブル等をしていないと回答しているのに問19で1円以上と回答、問18でいずれかのギャンブル等の種類を回答しているのに問19に0円と回答)、無回答(n=531)

## (6)ギャンブル等に関する相談先

**【問35】 あなたはこれまでに、あなた自身のギャンブル等のことで、だれか(どこか)に相談したことはありますか。(複数選択)**

生涯ギャンブル等経験がある者のうち、自身のギャンブル等問題について、相談経験をたずねたところ、「だれ(どこ)にも相談したことはない」と回答したのは全体の94.5%であった。相談先として最も多かったのは、家族や友人で4.5%であった。(図表16)

図表16 ギャンブル等での相談経験の有無と相談先

		n	相談先								
			家族や友人	生学校相談の窓口生や学	公的な相談機関	医療機関	書(法士等)士、門司家法	談(民間、無料の相談機関)	自助グループ	その他	はもだれい(どこ)に
全体	人数 割合	4,346 (100.0%)	196 (4.5%)	1 (0.0%)	12 (0.3%)	6 (0.1%)	16 (0.4%)	5 (0.1%)	2 (0.0%)	31 (0.7%)	4,105 (94.5%)
性別	男性	人数 割合	127 (5.6%)	0 (0.0%)	10 (0.4%)	4 (0.2%)	12 (0.5%)	4 (0.2%)	1 (0.0%)	13 (0.6%)	2,119 (93.3%)
	女性	人数 割合	67 (3.3%)	1 (0.0%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	4 (0.2%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	18 (0.9%)	1,938 (95.7%)

※問35 集計から除外:条件分岐(問13でいずれかのギャンブル等を選択していないもの)、無回答(n=624)

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=50)は掲載していないため、全体値と一致しない。

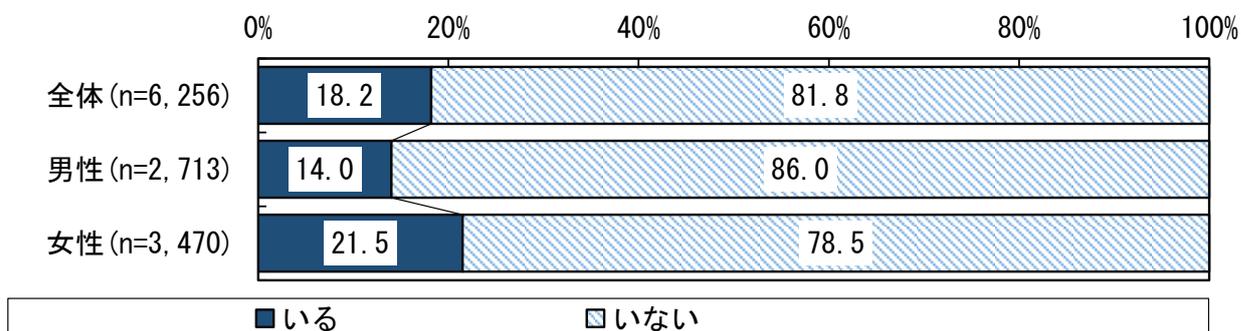
## (7) 家族や重要な他者のギャンブル等問題とその影響

### 【家族や重要な他者のギャンブル等問題】

【問36】 次にあげる人の中に、ギャンブル等の問題がある(あった)人はいいますか。今はなくとも過去にギャンブル等の問題があった人についても○をつけてください。(複数選択)

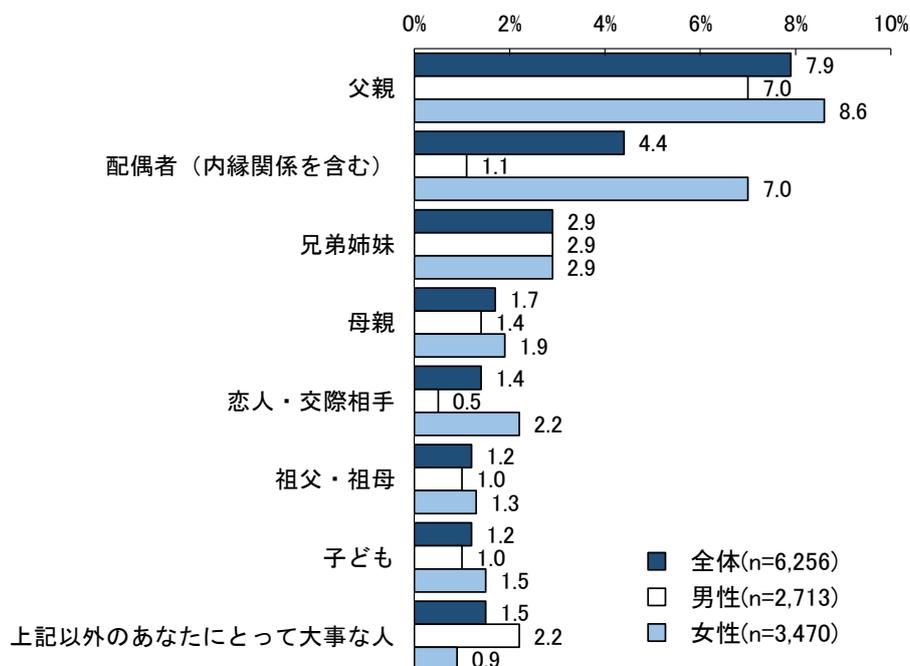
家族や重要な他者の中に、ギャンブル等の問題がある(あった)と回答したのは、全体の18.2%(男性:14.0%、女性21.5%)であった(図表17)。ギャンブル等の問題がある(あった)家族や重要な他者は、男性では「父親」7.0%、「兄弟姉妹」2.9%、「上記以外の大事な人」2.2%の順で割合が高かった。女性では、「父親」8.6%、「配偶者」7.0%、「兄弟姉妹」2.9%の順で割合が高かった。(図表18)

図表17 ギャンブル等の問題がある(あった)人の有無



※「いない」以外のいずれかにチェックが入った人を「いる」として集計

図表18 ギャンブル等の問題がある(あった)人



※「いない」(81.8%)は掲載せず

※問36 集計から除外: 無回答 (n=360)

※問1 その他、答えたくない、無回答の者 (n=73) は掲載していないため、全体値と一致しない。

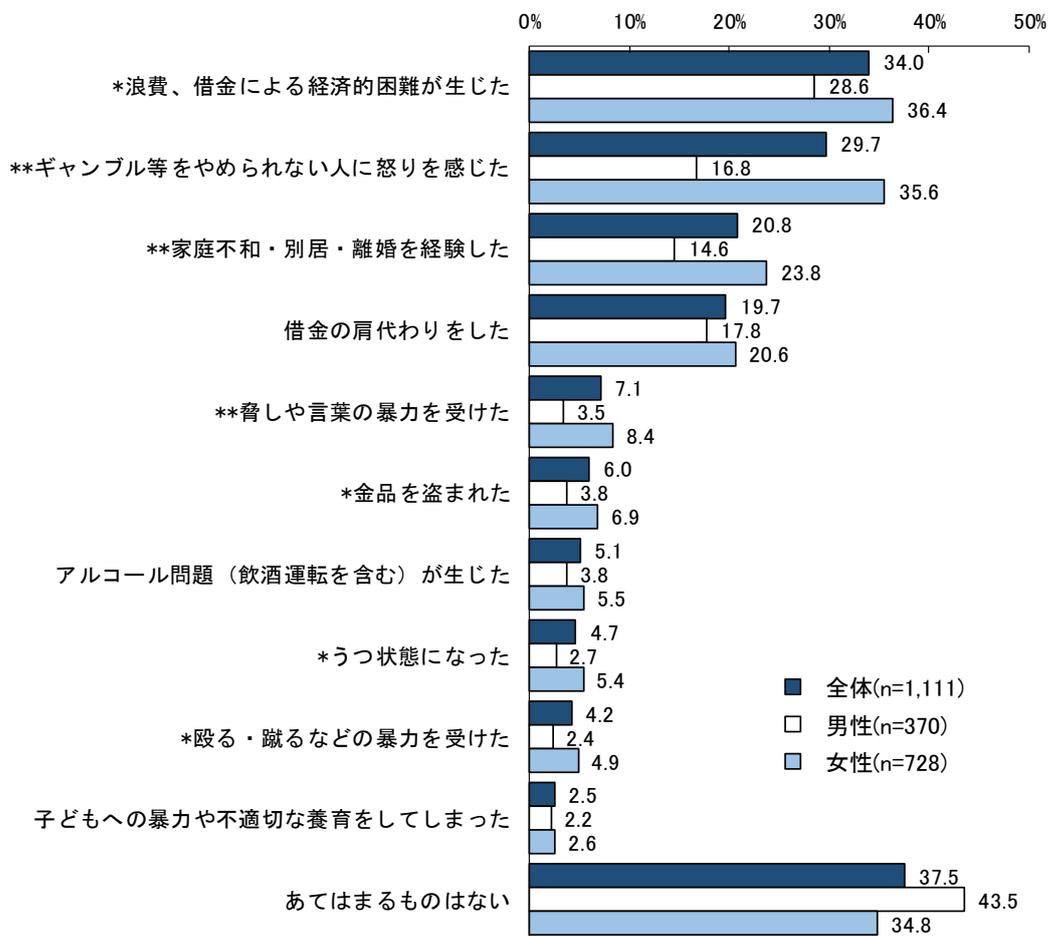
【家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響】

【問37】 あなたは、【問36】で答えた人のギャンブル等の問題から、次のような影響を受けたことがありますか。影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。(複数選択)

家族や重要な他者にギャンブル等問題がある(あった)と回答した者において、受けた影響として回答が多かったものは、「あてはまるものはない」を除くと、「浪費、借金による経済的困難が生じた」34.0%、「ギャンブル等を止められない人に怒りを感じた」29.7%であった。受けた影響について男女を比較すると、「ギャンブル等を止められない人に怒りを感じた」は男性より女性の方が回答した割合が有意に高かった。

( $\chi^2(1)=42.001, p<.01$ ) (図表19)

図表19 家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響



※問36で「いない」、「無回答」とした(n=5,475)、および問37における無回答(n=30)を除く、合計n=1111を集計対象とした。

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=13)は掲載していないため、全体値と一致しない。

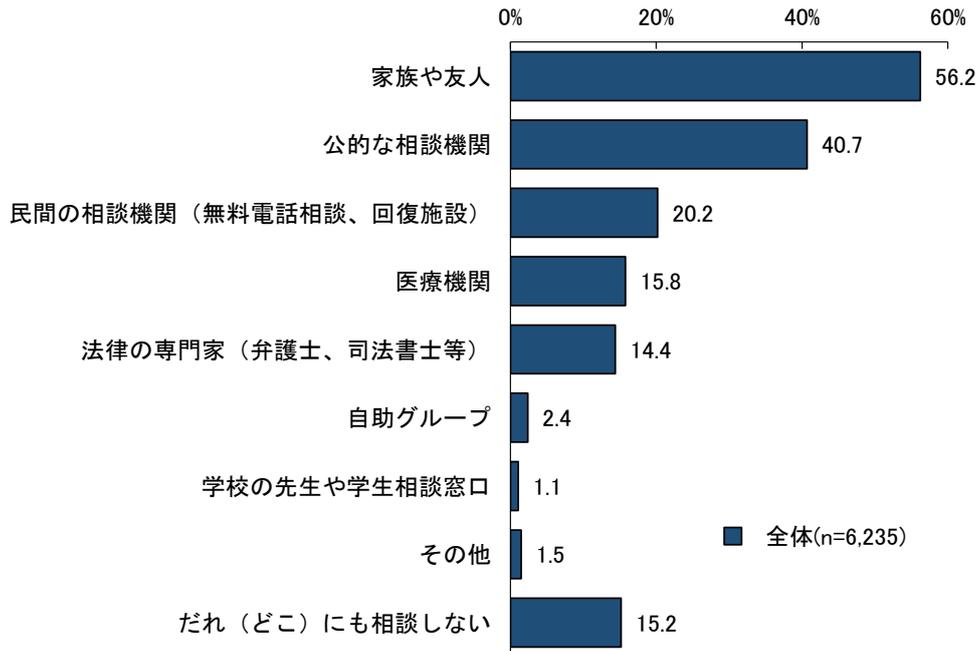
※ $\chi^2$ 検定による男女比較で有意差があった項目 \*\*p<.01、\*p<.05

## 【家族や重要な他者のギャンブル等問題の相談先】

【問38】 もし、あなた自身や、あなたの重要な関係者(家族や友人、同僚、交際相手など)がギャンブル等のことで困りごとを抱えたら、だれ(どこ)に相談しますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。(複数選択)

ギャンブル等のことで困った時の相談先としては、「家族や友人」を選択した回答者が最も多く(56.2%)、次いで「公的な相談機関」が40.7%であった。一方、全体の15.2%は「だれ(どこ)にも相談しない」と回答した。(図表20)

図表20 家族や重要な他者のギャンブル等問題の相談先



※問38 集計から除外:無回答(n=381)

## 7.3 「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計

ギャンブル障害のスクリーニングテストとしてSOGS、PGSI(2調査方法参照)の2種類の尺度を用いて、大阪府における「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合を推計した。なお本調査では、「過去1年間にギャンブル等経験がある者」を対象に過去1年間のギャンブルについてスクリーニングテストの得点を集計した。したがって、本調査では過去1年間におけるギャンブル等依存が疑われる者が、どの程度の割合存在しているのかを示す推計値を算出した。

### (1) SOGS(South Oaks Gambling Screen)による割合の推計

#### ① SOGS 得点の集計方法

本調査においては【問21～問34】がSOGSの得点項目に該当する。SOGS得点の集計サンプルの概要を図表21-1に示す。

まず、「ギャンブル等依存が疑われる者」の推計に際し、調査の回答者をギャンブル等経験の有無からグループに分けて検証した。「過去1年間のギャンブル等経験あり」と回答した2,230サンプル(性別年齢不明の108サンプルを除く)のうち、SOGS尺度の回答に不備があった159サンプルを除く2,071サンプルを対象に、SOGS得点を集計した。また、「過去1年間のギャンブル等経験なし」「生涯ギャンブル経験なし」の者のSOGS得点は、0点として取り扱った。(図表21-1)

また、上記のうち75歳未満のサンプルについても同様に集計した。(図表21-2)

図表21-1 SOGS 得点集計サンプルの概要(全年齢)

SOGS得点集計対象者の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル等経験ありのうち SOGS該当設問に完答	2,071	→SOGS得点集計の対象
過去1年ギャンブル等経験なし (生涯ギャンブル等経験のない者も含む)	4,278	→SOGS得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプル数の合計	6,349	→「ギャンブル等依存が疑われる者」の 割合推計の分母

※性別年齢不明の者(n=108)、過去1年間ギャンブル等経験ありの者のうち、SOGS尺度(問21～問34)の回答に不備がある者(n=159)は、集計から除外

図表21-2 SOGS 得点集計サンプルの概要(75歳未満)

SOGS得点集計対象者の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル等経験ありのうち SOGS該当設問に完答	1,877	→SOGS得点集計の対象
過去1年ギャンブル等経験なし (生涯ギャンブル等経験のない者も含む)	3,563	→SOGS得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプル数の合計	5,440	→「ギャンブル等依存が疑われる者」の 割合推計の分母

※性別年齢不明の者(n=108)、過去1年間ギャンブル等経験ありの者のうち、SOGS尺度(問21～問34)の回答に不備がある者(n=159)、75歳以上の者(n=909)は集計から除外

## ② SOGS 得点によるギャンブル等依存が疑われる者の人数と割合

本調査では、SOGs得点5点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」、3点～4点の回答者を「ギャンブル等依存のリスクがある者」とした。その結果、SOGs得点5点以上に該当した者は116名（男性101名、女性15名）、SOGs得点3点～4点に該当した者は114名（男性93名、女性21名）であった。（図表22-1）

年齢調整後<sup>4</sup>のSOGs得点分布において、「ギャンブル等依存が疑われる者（SOGs5点以上）」の割合は、全体で2.0%（95%信頼区間<sup>5</sup>:1.7～2.3）で、男性が3.8%（95%信頼区間:3.1～4.5）、女性が0.4%（95%信頼区間:0.2～0.6）であった。「ギャンブル等依存のリスクがある者（SOGs3点～4点）」の割合は、全体で1.9%（95%信頼区間:1.6～2.2）で、男性が3.4%（95%信頼区間:2.8～4.0）、女性が0.6%（95%信頼区間:0.3～0.9）であった。（図表22-2）

図表22-1 年齢調整前のSOGs 得点分布(全年齢)

		n	SOGs 得点			
			5点未満		5点以上	
			0点～2点	3点～4点		
全体	人数 割合	6,349 (100.0%)	6,119 (96.4%)	114 (1.8%)	116 (1.8%)	
性別	男性	人数 割合	2,776 (100.0%)	2,582 (93.0%)	93 (3.4%)	101 (3.6%)
	女性	人数 割合	3,573 (100.0%)	3,537 (99.0%)	21 (0.6%)	15 (0.4%)

図表22-2 年齢調整後のSOGs 得点分布(全年齢)

		n	SOGs 得点			
			5点未満		5点以上	
			0点～2点	3点～4点		
全体	人数 割合 95%信頼区間	6,349 (100.0%) —	6,104.2 (96.1%) —	120.2 (1.9%) 1.6～2.2	124.6 (2.0%) 1.7～2.3	
性別	男性	人数 割合 95%信頼区間	2,997 (100.0%) —	2,782.8 (92.9%) —	101.4 (3.4%) 2.8～4.0	112.6 (3.8%) 3.1～4.5
	女性	人数 割合 95%信頼区間	3,352 (100.0%) —	3,321.3 (99.1%) —	18.7 (0.6%) 0.3～0.9	12.0 (0.4%) 0.2～0.6

<sup>4</sup> 年齢調整：大阪府の人口における年齢構成と、本調査の回答者における年齢構成の差異の影響を取り除くため、令和2年10月1日現在人口を基準人口として補正し、年齢調整後の割合を算出した。年齢調整の詳細については、本報告書「4年齢調整方法」を参照。

<sup>5</sup> 95%信頼区間：同じ調査を100回実施した場合、95回はその区間内に真の値が含まれることを意味する。

75歳未満の回答者について「ギャンブル等依存が疑われる者」と「ギャンブル等依存のリスクがある者」を見ると、SOGS得点5点以上に該当した者は107名（男性93名、女性14名）、SOGS得点3点～4点に該当した者は101名（男性83名、女性18名）であった。（図表23-1）

年齢調整後のSOGS得点分布において、「ギャンブル等依存が疑われる者（SOGS5点以上）」の割合は、全体で2.2%（95%信頼区間:1.8～2.6）で、男性が4.0%（95%信頼区間:3.2～4.8）、女性が0.4%（95%信頼区間:0.1～0.7）であった。「ギャンブル等依存のリスクがある者（SOGS3点～4点）」の割合は、全体で2.0%（95%信頼区間:1.6～2.4）で、男性が3.6%（95%信頼区間:2.8～4.4）、女性が0.5%（95%信頼区間:0.2～0.8）であった。（図表23-2）

図表23-1 年齢調整前のSOGS 得点分布(75歳未満)

		n	SOGS 得点		
			5点未満		5点以上
			0点～2点	3点～4点	
全体		5,440 (100.0%)	5,232 (96.2%)	101 (1.9%)	107 (2.0%)
性別	男性	2,361 (100.0%)	2,185 (92.5%)	83 (3.5%)	93 (3.9%)
	女性	3,079 (100.0%)	3,047 (99.0%)	18 (0.6%)	14 (0.5%)

図表23-2 年齢調整後のSOGS 得点分布(75歳未満)

		n	SOGS 得点		
			5点未満		5点以上
			0点～2点	3点～4点	
全体		4,521 (100.0%)	4,329.7 (95.8%)	91.8 (2.0%)	99.1 (2.2%)
		95%信頼区間	—	1.6～2.4	1.8～2.6
性別	男性	2,213 (100.0%)	2,043.9 (92.3%)	79.7 (3.6%)	89.6 (4.0%)
	女性	2,307 (100.0%)	2,285.8 (99.1%)	12.1 (0.5%)	9.5 (0.4%)
		95%信頼区間	—	0.2～0.8	0.1～0.7

## (2)PGSI(The Problem Gambling Severity Index)による割合の推計

### ① PGSI 得点の集計方法

本調査における【問20】がPGSI尺度に該当する。PGSI得点の集計サンプルの概要を図表24-1に示す。また、このうち75歳未満のサンプルについても同様に集計した。(図表24-2)

図表24-1 PGSI 得点集計サンプルの概要(全年齢)

PGSI得点集計対象者の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル等経験ありのうちPGSI該当設問に完答	2,115	→PGSI得点集計の対象
過去1年ギャンブル等経験なし(生涯ギャンブル経験のない者も含む)	4,278	→PGSI得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプル数の合計	6,393	→「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合推計の分母

※性別年齢不明の者(n=108)、過去1年間ギャンブル等経験ありの者のうち、PGSI尺度(問20)の回答に不備がある者(n=115)は、集計から除外

図表24-2 PGSI 得点集計サンプルの概要(75歳未満)

PGSI得点集計対象者の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル等経験ありのうちPGSI該当設問に完答	1,910	→PGSI得点集計の対象
過去1年ギャンブル等経験なし(生涯ギャンブル経験のない者も含む)	3,563	→PGSI得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプル数の合計	5,473	→「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合推計の分母

※性別年齢不明の者(n=108)、過去1年間ギャンブル等経験ありの者のうち、PGSI尺度(問20)の回答に不備がある者(n=115)、75歳以上の者(n=920)は、集計から除外

### ② PGSI 得点によるギャンブル等依存が疑われる者の人数と割合

本調査では、PGSI得点8点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。その結果、PGSI得点8点以上に該当した者は125名(男性113名、女性12名)であった。(図表25-1)

年齢調整後のPGSI得点分布において、ギャンブル等依存が疑われる者(8点以上)の割合は全体で2.1%(95%信頼区間:1.7~2.5)、男性4.2%(95%信頼区間:3.5~4.9)、女性0.3%(95%信頼区間:0.1~0.5)であった。(図表25-2)

図表25-1 年齢調整前のPGSI 得点分布(全年齢)

		n	PGSI 得点				
			8点未満			8点以上	
			0点	1点～2点	3点～7点		
全体	人数 割合	6,393 (100.0%)	5,698 (89.1%)	283 (4.4%)	287 (4.5%)	125 (2.0%)	
性別	男性	人数 割合	2,795 (100.0%)	2,271 (81.3%)	196 (7.0%)	215 (7.7%)	113 (4.0%)
	女性	人数 割合	3,598 (100.0%)	3,427 (95.2%)	87 (2.4%)	72 (2.0%)	12 (0.3%)

図表25-2 年齢調整後のPGSI 得点分布(全年齢)

		n	PGSI 得点	
			8点未満	8点以上
全体	人数 割合 95%信頼区間	6,397 (100.0%) —	6,260.3 (97.9%) —	136.5 (2.1%) 1.7～2.5
性別	男性	人数 割合 95%信頼区間	3,019 (100.0%) —	2,891.8 (95.8%) — 3.5～4.9
	女性	人数 割合 95%信頼区間	3,378 (100.0%) —	3,368.5 (99.7%) — 0.1～0.5

75歳未満の回答者について「ギャンブル等依存が疑われる者」を見ると、PGSI得点8点以上に該当した者は117名(男性106名、女性11名)であった。(図表26-1)

年齢調整後のPGSI得点分布において、ギャンブル等依存が疑われる者(8点以上)の割合は全体で2.4%(95%信頼区間:2.0～2.8)、男性4.6%(95%信頼区間:3.7～5.5)、女性0.3%(95%信頼区間:0.1～0.5)であった。(図表26-2)

図表26-1 年齢調整前のPGSI 得点分布(75歳未満)

		n	PGSI 得点				
			8点未満			8点以上	
			0点	1点～2点	3点～7点		
全体	人数 割合	5,473 (100.0%)	4,846 (88.5%)	249 (4.5%)	261 (4.8%)	117 (2.1%)	
性別	男性	人数 割合	2,374 (100.0%)	1,906 (80.3%)	171 (7.2%)	191 (8.0%)	106 (4.5%)
	女性	人数 割合	3,099 (100.0%)	2,940 (94.9%)	78 (2.5%)	70 (2.3%)	11 (0.4%)

図表26-2 年齢調整後のPGSI 得点分布(75歳未満)

		n	PGSI 得点	
			8点未満	8点以上
全体	人数 割合 95%信頼区間	4,551 (100.0%) —	4,440.2 (97.6%) —	110.4 (2.4%) 2.0～2.8
性別	男性	人数 割合 95%信頼区間	2,229 (100.0%) —	2,125.9 (95.4%) — 3.7～5.5
	女性	人数 割合 95%信頼区間	2,321 (100.0%) —	2,314.3 (99.7%) — 0.1～0.5

## 7.4「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル等行動

ギャンブル等依存が疑われる者(SOG5点以上)におけるギャンブル等行動(経験したギャンブル等の種類、最もお金を使ったギャンブル等)について集計した。

### (1)ギャンブル等依存が疑われる者-過去1年間で経験したギャンブル等の種類と頻度

【問14】 【問13】で、回答されたギャンブル等について、過去1年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。

(各項目単一選択)

#### 【ギャンブル等依存が疑われる者(SOG5点以上)-過去1年間で経験したギャンブル等の種類(男女別の割合)】

ギャンブル等依存が疑われる者における過去1年間で経験したギャンブル等の種類は、全体でパチンコ(64.7%)が最も高く、続いて、宝くじ(スクラッチ、ロト等)(49.1%)、パチスロ(40.5%)、競馬(37.1%)の順で割合が高かった。(図表27)

図表27 ギャンブル等依存が疑われる者-過去1年間で経験したギャンブル等の種類

		n	ギャンブル等の種類												
			パチンコ	パチスロ	競馬★	競輪★	競艇(ボートレース)★	オートレース★	宝くじ(スクラッチ、ロト等、ナンバークイズ、ビンゴ5、着せかえクッキー等を含む)★	スポーツ振興くじ(otto、BIG、WINNERなど)★	インターネットを使ったギャンブル(★印のギャンブル等で、券などの購入のためにインターネットを使ったものを除く)	※仕事など業務で行うものは除く 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	※実際の施設で行うもの 海外のカジノ	その他のギャンブル	
全体	人数 割合	116 (100.0%)	75 (64.7%)	47 (40.5%)	43 (37.1%)	8 (6.9%)	15 (12.9%)	3 (2.6%)	57 (49.1%)	11 (9.5%)	7 (6.0%)	14 (12.1%)	3 (2.6%)	3 (2.6%)	
性別	男性	人数 割合	101 (100.0%)	63 (62.4%)	41 (40.6%)	38 (37.6%)	8 (7.9%)	15 (14.9%)	3 (3.0%)	47 (46.5%)	8 (7.9%)	5 (5.0%)	11 (10.9%)	2 (2.0%)	3 (3.0%)
	女性	人数 割合	15 (100.0%)	12 (80.0%)	6 (40.0%)	5 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (66.7%)	3 (20.0%)	2 (13.3%)	3 (20.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)

※集計から除外: 設問内矛盾(1項目内で2つ以上選択)、無回答、選択肢1「過去1年間はギャンブル等を全くしていない」

**【ギャンブル等依存が疑われる者-過去1年間に行ったギャンブル等の頻度】**

ギャンブル等依存が疑われる者において、過去1年間で行ったギャンブル等の種類のうち、「週1回以上」の頻度で行った割合が最も高いのは、パチンコ(31.9%)であった。続いて、競馬(19.0%)、パチスロ(14.7%)で割合が高かった。(図表28)

**図表28 ギャンブル等依存が疑われる者-過去1年間でギャンブル等を行った頻度**

単位:人数(n=116における割合)

		ギャンブル等の種類													
		パチンコ	パチスロ	競馬★	競輪★	競艇(ボートレース)★	オートレース★	クズ、ビンゴ5、着せかえクレーン、ナンバークイズ、ビンゴ5、着せかえクレーン、ナンバークイズ等を含む)★	宝くじ(スクラッチ、ロト、ナンバークイズ等)★	BIG、WINNERなど)★	スポーツ振興くじ(otto、BIG、WINNERなど)★	購入のためにインターネットを使ったものを除く)	インターネットを使ったギャンブル(★印のギャンブル等で、券などの購入のためにインターネットを使ったものを除く)	※証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	※海外のカジノ
合計		人数 割合	75 (64.7%)	47 (40.5%)	43 (37.1%)	8 (6.9%)	15 (12.9%)	3 (2.6%)	57 (49.1%)	11 (9.5%)	7 (6.0%)	14 (12.1%)	3 (2.6%)	3 (2.6%)	
SOGS 5点以上 (n=116) における頻度	週1回未満	人数 割合	38 (32.8%)	30 (25.9%)	21 (18.1%)	5 (4.3%)	11 (9.5%)	2 (1.7%)	42 (36.2%)	8 (6.9%)	4 (3.4%)	5 (4.3%)	2 (1.7%)	2 (1.7%)	
	週1回以上	人数 割合	37 (31.9%)	17 (14.7%)	22 (19.0%)	3 (2.6%)	4 (3.4%)	1 (0.9%)	15 (12.9%)	3 (2.6%)	3 (2.6%)	9 (7.8%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	

## (2)ギャンブル等依存が疑われる者の群とそうでない者の群の比較-公営競技等の主な券の購入方法

【問15】 【問14】で競馬、競輪、競艇、オートレース、宝くじ(スクラッチ、ロト、ナンバーズ、ビンゴ5、着せかえクッキー、クイックワン等を含む)、スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)を過去1年間にしたことがあると回答した方にお尋ねします。

過去1年間で、主にどこで券を購入しましたか。ギャンブル等ごとに、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(各項目単一選択)

【問14】で競馬、競輪、競艇、オートレース、宝くじ(スクラッチ、ロト等)、スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNERなど)の経験が過去1年間に「週1回未満」または「週1回以上」と回答し、かつ、SOGSの該当質問に完答者(SOGS得点を集計した者)を対象に集計した。各公営競技等の券の購入方法について、ギャンブル等依存が疑われる者の群とそうでない者の群で比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では「競馬」で主にインターネット(オンライン)で購入の割合が高かったが、有意差はみられなかった。(図表29)

図表29 ギャンブル等依存が疑われる者の群とそうでない者の群の比較  
-過去1年間の公営競技等の主な券の購入方法

公営競技等	SOGS得点	主にインターネット (オンライン) で購入	主にギャンブル場又は 売り場(場外を含む) で購入	合計
競馬	5点未満	265 (72.0%)	103 (28.0%)	368 (100.0%)
	5点以上	23 (62.2%)	14 (37.8%)	37 (100.0%)
競輪	5点未満	19 (73.1%)	7 (26.9%)	26 (100.0%)
	5点以上	3 (42.9%)	4 (57.1%)	7 (100.0%)
競艇(ボートレース)	5点未満	33 (45.2%)	40 (54.8%)	73 (100.0%)
	5点以上	6 (46.2%)	7 (53.8%)	13 (100.0%)
オートレース	5点未満	6 (75.0%)	2 (25.0%)	8 (100.0%)
	5点以上	1 (33.3%)	2 (66.7%)	3 (100.0%)
宝くじ(スクラッチ、ロト、ナンバーズ、ビンゴ5、着せかえクッキー、クイックワン等を含む)	5点未満	243 (22.8%)	823 (77.2%)	1,066 (100.0%)
	5点以上	5 (11.4%)	39 (88.6%)	44 (100.0%)
スポーツ振興くじ (toto、BIG、WINNERなど)	5点未満	123 (60.0%)	82 (40.0%)	205 (100.0%)
	5点以上	3 (30.0%)	7 (70.0%)	10 (100.0%)

(3)ギャンブル等依存が疑われる者-過去1年間で最もお金を使ったギャンブル等の種類

【問18】 過去1年間で、最もお金を使った(つぎ込んだ)ギャンブル等はどれですか。(単一選択)

ギャンブル等依存が疑われる者において、最もお金を使ったギャンブル等の種類は、全体でパチンコ(42.9%)が最も多く、次いで、パチスロ(20.0%)が多くなった。(図表30)

図表30 ギャンブル等依存が疑われる者-過去1年間で最もお金を使ったギャンブル等の種類

	n	ギャンブル等の種類												
		パチンコ	パチスロ	競馬★	競輪★	競艇(ボートレース)★	オートレース★	宝くじ(スクラッチ、ロト、ナンバーズ、クイックワン等を含む)★	BIG、WINNERなど)★	スポーツ振興くじ(otto、)	購入のためにインターネットを使ったものを除く)	インターネットを使ったギャンブル(★印のギャンブル等で、券などの購入のためにインターネットを使ったものを除く)	※仕事など業務で行うものは除く	証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX
全体	人数 割合	105 (100.0%)	45 (42.9%)	21 (20.0%)	20 (19.0%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	1 (1.0%)	5 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (8.6%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)

※問18 集計から除外:矛盾・不明回答(n=11)

#### (4)ギャンブル等依存が疑われる者-過去1年間で1か月あたりにギャンブル等にかけた金額

**【問19】 過去1年間、1か月あたりギャンブル等にどのくらいお金をかけていますか。勝ったお金は含めずにお答えください。**

ギャンブル等依存が疑われる者において、1か月あたりギャンブル等にかけた金額は、1万円以上5万円未満が最も多く、次いで、10万円以上50万円未満が多くなった。月に1円以上ギャンブル等にかける場合の金額の中央値は50,000円/月、平均値は640,821円/月であった。(図表31-1、図表31-2)

**図表31-1 ギャンブル等依存が疑われる者-過去1年間でギャンブル等にかけている金額  
(1か月あたり、勝ったお金は含めず)**

		n	金額							
			0円	1円以上 2千円未満	2千円以上 5千円未満	5千円以上 1万円未満	1万円以上 5万円未満	5万円以上 10万円未満	10万円以上 50万円未満	50万円以上
全体	人数 割合	109 (100.0%)	0 (0.0%)	4 (3.7%)	2 (1.8%)	3 (2.8%)	40 (36.7%)	23 (21.1%)	24 (22.0%)	13 (11.9%)

**図表31-2 ギャンブル等依存が疑われる者-過去1年間でギャンブル等にかけている金額  
(1か月あたり、勝ったお金は含めず)**

単位: 1か月あたりの金額(円)

金額	全体
最小値	10
第一四分位数	20,000
中央値	50,000
第三四分位数	100,000
最大値	50,000,000
平均値	640,821

※問19 集計から除外: 矛盾・不明回答(n=7)

## 7.5 「ギャンブル等依存が疑われる者」における「ギャンブル等関連問題」

ギャンブル等依存が疑われる者(SOGs5点以上)とギャンブル等関連問題との関連を検証した。

### (1)ギャンブル等問題と飲酒問題との関連

【問7】あなたはアルコールが含まれる飲料をどのくらいの頻度で飲みますか。(単一選択)

【問8】飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。(単一選択)

【問9】1度に6ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。(単一選択)

問7-9で用いたAUDIT-Cとは、アルコール使用障害のスクリーニングテストであり、AUDIT(The Alcohol Use Disorders Identification Test)の質問の中から飲酒量、飲酒頻度、多量飲酒頻度を問う3項目によってアルコール問題の有無を評価するもので、12点満点中、男性は5点以上、女性は4点以上の場合に、何らかのアルコール問題があるとされる。

#### 【全体の傾向:飲酒問題】

男性2,733名中AUDIT-C5点以上は999名(36.6%)であった。女性3,448名中、AUDIT-C4点以上は828名(24.0%)であった。(図表32)

図表32 AUDIT-C 得点の分布

		n	AUDIT-C 得点区分	
			男性 0~4点 / 女性 0~3点	男性 5点以上 / 女性 4点以上
全体	人数	6,181	4,354	1,827
	割合	(100.0%)	(70.4%)	(29.6%)
性別	男性	2,733	1,734	999
	割合	(100.0%)	(63.4%)	(36.6%)
	女性	3,448	2,620	828
	割合	(100.0%)	(76.0%)	(24.0%)

※集計から除外:問7~9のうち、1つ以上無回答・矛盾回答(1問で2つ以上の選択肢を選択)(n=361)、問1でその他・答えたくない・無回答(n=74)

#### 【ギャンブル等依存が疑われる者(SOGs5点以上)と飲酒問題との関連】

SOGsの得点区分別に、AUDIT-Cによる飲酒問題のあり、なしの割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では飲酒問題のある割合が有意に高かった。 $(\chi^2(2)=16.050, p<.01)$ (図表33)

図表33 ギャンブル等依存と飲酒問題との相関

		n	飲酒問題	
			なし	あり
全体	人数	6,021	4,581	1,440
	割合	(100.0%)	(76.1%)	(23.9%)
SOGs 得点	5点未満	5,912	4,532	1,380
	割合	(100.0%)	(76.7%)	(23.3%)
	5点以上	109	49	60
	割合	(100.0%)	(45.0%)	(55.0%)

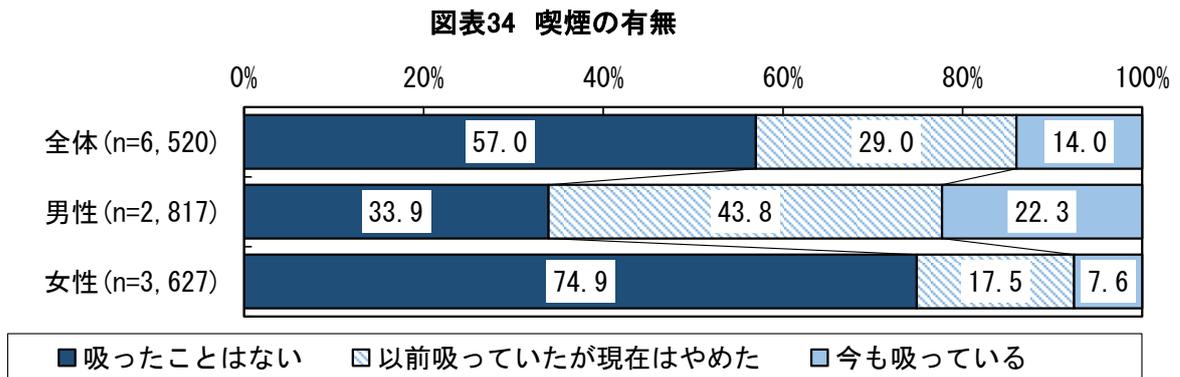
※集計から除外:問7~9のうち、1つ以上無回答・答えない・矛盾回答(1問で2つ以上の選択肢を選択)(n=361)、SOGs(問21~34)に回答不備(n=267)

## (2)ギャンブル等問題と喫煙との関連

**【問10】 あなたの喫煙(紙巻きタバコ、電子タバコ、加熱式タバコ含む)について、あてはまるものを1つ選んでください。**

### 【全体の傾向:喫煙】

現在または過去の喫煙があるとの回答割合は、全体で43.0%であり、男性では66.1%、女性では25.1%であった。(図表34)



※問10 集計から除外:無回答(n=96)

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=76)は掲載していないため、全体値と一致しない。

### 【ギャンブル等依存が疑われる者(SOG5点以上)と喫煙との関連】

SOG5の得点区別に喫煙歴を「吸ったことはない」「以前吸っていたが現在はやめた」「今も吸っている」に分類して比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では現在も喫煙している割合が有意に高かった。 $(\chi^2(2)=55.202, p<.01)$ (図表35)

図表35 ギャンブル等依存と喫煙との相関

		n	喫煙歴		
			吸ったことはない*	以前吸っていたが現在はやめた*	今も吸っている*
全体		人数 6,520 割合 (100.0%)	3,719 (57.0%)	1,891 (29.0%)	910 (14.0%)
SOG5 得点	5点未満	人数 6,143 割合 (100.0%)	3,547 (57.7%)	1,757 (28.6%)	839 (13.7%)
	5点以上	人数 114 割合 (100.0%)	29 (25.4%)	48 (42.1%)	37 (32.5%)

※集計から除外:問10で無回答(n=96)、SOG5(問21~34)に回答不備(n=267)

※残差分析の結果 \*:有意差あり、ns:有意差なし

### (3)ギャンブル等問題と抑うつ、不安との関連

ギャンブル等問題と「抑うつ・不安」との関連を検証するため、抑うつ・不安のスクリーニング尺度(K6)を用いた。  
(図表36)

**【問11】 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。(それぞれ単一選択)**

図表36 < K6 得点の評価方法 >

0～4点	問題なし
5～9点	何らかのうつ・不安の問題がある可能性がある
10～12点	うつ・不安障害が疑われる
13点以上	重度のうつ・不安障害が疑われる

#### 【全体の傾向:抑うつ・不安】

過去1か月の間に「抑うつ・不安」の問題がある者(K6得点5点以上)は、全体の31.9%であった。男女別でみるとK6得点5点以上の割合は、男性(29.9%)より女性(33.1%)の方が高かった。 $(\chi^2(3)=8.601, p<.05)$   
(図表37)

図表37 K6 得点の分布

		n	K6得点区分				K6 得点 5点以上
			0～4点	5～9点	10～12点	13点以上	
全体	人数	6,302	4,294	1,215	377	416	2,008
	割合	(100.0%)	(68.1%)	(19.3%)	(6.0%)	(6.6%)	(31.9%)
性別	男性	2,747	1,927	504	147	169	820
	割合	(100.0%)	(70.1%)	(18.3%)	(5.4%)	(6.2%)	(29.9%)
	女性	3,487	2,333	694	229	231	1,154
	割合	(100.0%)	(66.9%)	(19.9%)	(6.6%)	(6.6%)	(33.1%)

※問11 集計から除外:設問内矛盾(1項目内で2つ以上選択)、無回答(1項目以上)(n=314)

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=68)は掲載していないため、全体値と一致しない。

#### 【ギャンブル等依存が疑われる者(SOG5点以上)と抑うつ、不安との関連】

SOG5の得点区別にK6の得点区分を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では、有意に重度のうつ・不安障害が強いことが示された。 $(\chi^2(3)=26.671, p<.01)$ (図表38)

図表38 ギャンブル等依存と抑うつ、不安との相関

		n	K6 得点区分				K6 得点 5点以上
			0～4点*	5～9点*	10～12点(ns)	13点以上*	
全体	人数	6,302	4,294	1,215	377	416	2,008
	割合	(100.0%)	(68.1%)	(19.3%)	(6.0%)	(6.6%)	(31.9%)
SOG5 得点	5点未満	5,956	4,092	1,138	356	370	1,864
	割合	(100.0%)	(68.7%)	(19.1%)	(6.0%)	(6.2%)	(31.3%)
	5点以上	114	60	28	8	18	54
	割合	(100.0%)	(52.6%)	(24.6%)	(7.0%)	(15.8%)	(47.4%)

※問11 集計から除外:設問内矛盾(1項目内で2つ以上選択)、無回答(1項目以上)、SOG5(問21～問34)に回答不備(n=267)

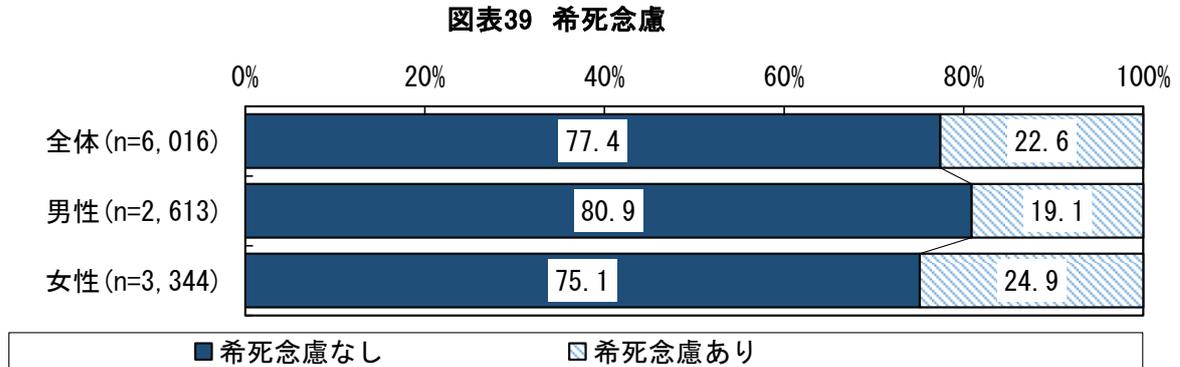
※残差分析の結果 \*:有意差あり、ns:有意差なし

#### (4)ギャンブル等問題と希死念慮との関連

【問12】あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。(単一選択)

##### 【全体の傾向:希死念慮】

これまでに自殺したいと考えたことがあるとの回答割合は、全体で22.6%であり、男性では19.1%、女性では24.9%であった。(図表39)



※問12 集計から除外: 答えたくない(n=469)、無回答(n=131)

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=59)は掲載していないため、全体値と一致しない。

##### 【ギャンブル等依存が疑われる者(SOG5点以上)と希死念慮との関連】

SOGSの得点区別に「これまでに自殺したいと考えたことがありますか」との質問への回答割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では、希死念慮を有する割合が有意に高かった。 $(\chi^2(1)=26.995, p<.01)$  (図表40)

図表40 ギャンブル等依存と希死念慮との相関

		n	希死念慮	
			なし	あり
全体		6,016 (100.0%)	4,659 (77.4%)	1,357 (22.6%)
SOGS 得点	5点未満	5,690 (100.0%)	4,436 (78.0%)	1,254 (22.0%)
	5点以上	101 (100.0%)	59 (58.4%)	42 (41.6%)

※集計から除外: 問12 答えたくない(n=469)、無回答(n=131)、SOGS(問21～問34)に回答不備(n=267)

## 7.6 「家族や重要な他者のギャンブル等問題のある(あった)者」と抑うつ、不安との関連

### (1)「家族や重要な他者のギャンブル等問題のある(あった)者」と抑うつ、不安との関連

【問36】 次にあげる人の中に、ギャンブル等の問題がある(あった)人はいますか。今はなくとも過去にギャンブル等の問題があった人についても○をつけてください。(複数選択)

#### 【抑うつ、不安との関連】

家族や重要な他者のギャンブル等の問題がある(あった)人の有無でみると、K6得点5点以上の割合は、「いない」(30.1%)より「いる」(40.6%)の方が高かった。(  $\chi^2(1)=48.146, p<.01$  ) (図表41)

図表41 家族や重要な他者のギャンブル等問題があった人の有無と抑うつ、不安との相関

		n	K6 得点区分				K6 得点
			0～4点*	5～9点*	10～12点*	13点以上*	5点以上
全体		人数 割合 6,015 (100.0%)	4,096 (68.1%)	1,154 (19.2%)	365 (6.1%)	400 (6.7%)	1,919 (32.0%)
家族や重要な他者のギャンブル等の問題がある(あった)人の有無	いる	人数 割合 1,097 (100.0%)	652 (59.4%)	261 (23.8%)	82 (7.5%)	102 (9.3%)	445 (40.6%)
	いない	人数 割合 4,918 (100.0%)	3,444 (70.0%)	893 (18.2%)	283 (5.8%)	298 (6.1%)	1,474 (30.1%)

※集計から除外：問11で設問内矛盾(1項目内で2つ以上の選択肢を選択)、無回答(1項目以上)、問36に回答不備  
 ※残差分析の結果 \*：有意差あり、ns：有意差なし

## 7.7 ギャンブル等依存症に対する認識とギャンブル等依存症対策の認知度

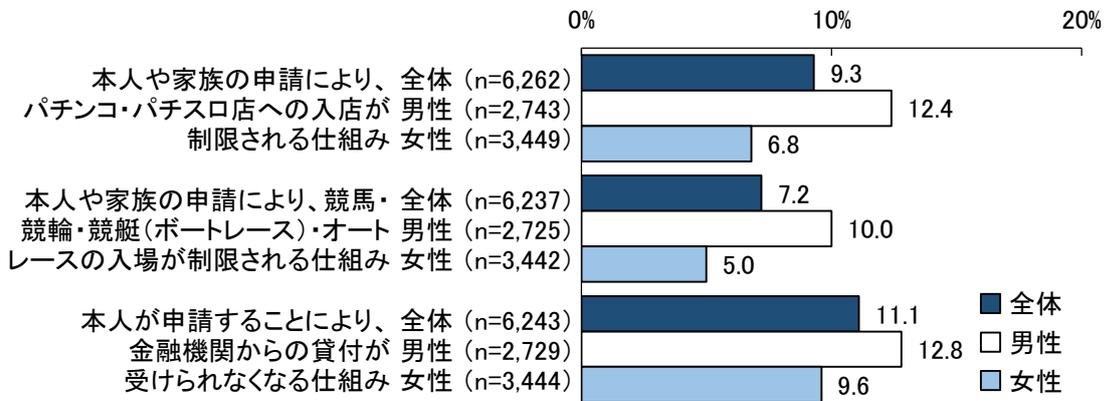
### (1) ギャンブル等依存症対策の認知度

【問39】 ギャンブル等依存症対策に関する、下記の①～③の仕組みについて、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

#### 【全体の傾向】

ギャンブル等依存症対策に関して、「知っている」との回答は、全体では「金融機関からの貸付制限」が11.1%、「パチンコ・パチスロ店の入店制限」が9.3%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」が7.2%であった。また、全ての項目で女性より男性の方が「知っている」と回答した割合が高い傾向にあった。(図表42)

図表42 ギャンブル等依存症対策の認知度



※集計から除外：問39で無回答(上から n= 354、379、373)

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(上から n= 70、70、70)は掲載していないため、全体値と一致しない。

※(%)は、「知っている」と回答した者の割合

#### 【ギャンブル等依存が疑われる者(SOG5点以上)におけるギャンブル等依存症対策に関する認知度】

ギャンブル等依存症対策の認知度に関して、「パチンコ・パチスロ店の入店制限」「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」「金融機関からの貸付制限」の項目で、ギャンブル等依存が疑われる者の群は、そうでない者の群と比べ、「知っている」と回答した割合が有意に高かった。ギャンブル等依存が疑われる者のうち、「パチンコ・パチスロ店の入店制限」は22.0%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」は16.5%、「金融機関からの貸付制限」は23.3%が「知っている」と回答した。a:  $\chi^2(1)=27.230, p<.01$ , b:  $\chi^2(1)=17.914, p<.01$ , c:  $\chi^2(1)=22.645, p<.01$ (図表43)

図表43 ギャンブル等依存症対策等を「知っている」と回答した者の割合【SOG5点区分比較】

SOG5 得点		a.本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み		b.本人や家族の申請により、競馬・競輪・競艇(オートレース)・オートレースの入場が制限される仕組み		c.本人が申請することにより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組み	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
5点未満	人数	526	(8.9%)	409	(6.9%)	632	(10.7%)
	有効回答者	5,908		5,886		5,893	
5点以上	人数	26	(22.4%)	19	(16.5%)	27	(23.3%)
	有効回答者	116		115		116	

※集計から除外：問39で無回答、SOG5(問21～34)に回答不備(n=165)

## (2)ギャンブル等依存症に対する認識

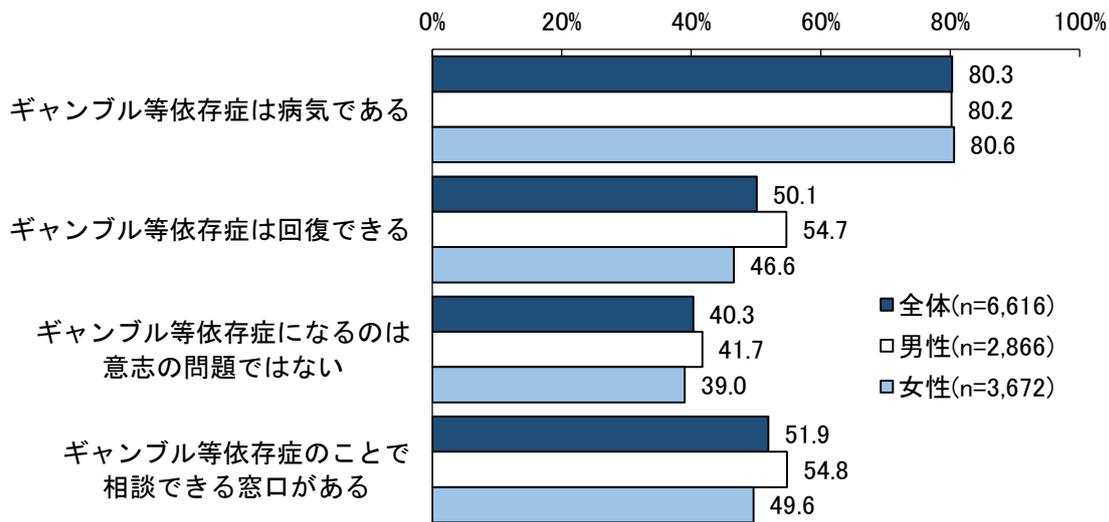
**【問40】** ギャンブル等依存症について知っていることについて、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

### 【全体の傾向】

ギャンブル等依存症に関して、「知っている」との回答は、全体では「ギャンブル等依存症は病気である」が80.3%、「ギャンブル等依存症のことで相談できる窓口がある」が51.9%、「ギャンブル等依存症は回復できる」が50.1%、「ギャンブル等依存症になるのは意志の問題ではない」が40.3%であった。「ギャンブル等依存症は病気である」以外は、女性より男性の方が「知っている」と回答した割合が高い。(図表44-1)

また、年代別で見ると、「ギャンブル等依存症は回復できる」以外は、30歳代で「知っている」と回答した割合が最も高く、年代が上がるにつれて低下している。「ギャンブル等依存症は回復できる」は若年層ほど「知っている」と回答した割合が高い。(図表44-2)

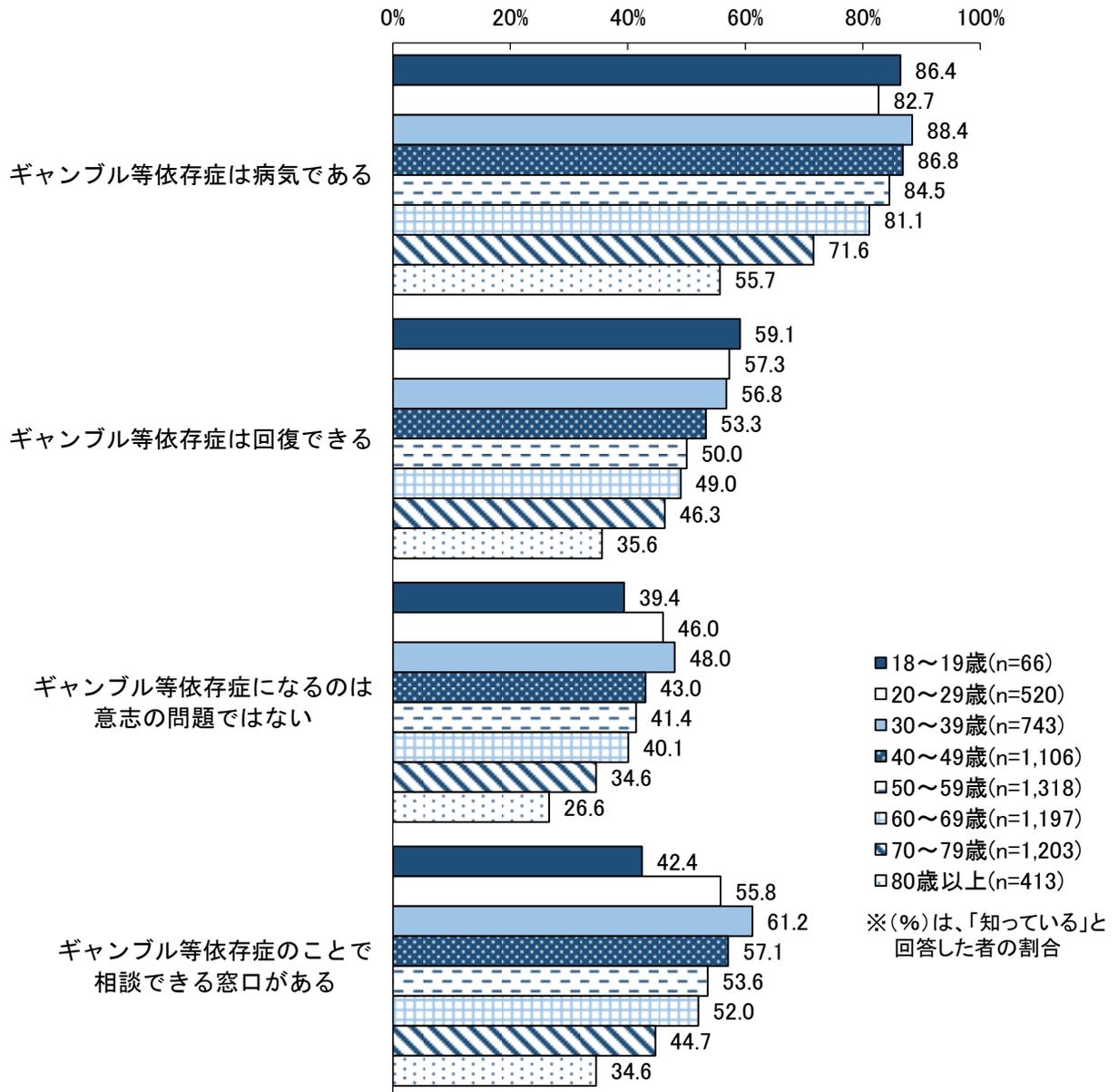
図表44-1 性別ギャンブル等依存症に対する認識



※(%)は、「知っている」と回答した者の割合

※問1 その他、答えたくない、無回答の者(n=78)は掲載していないため、全体値と一致しない。

図表44-2 年代別ギャンブル等依存症に対する認識



【ギャンブル等依存が疑われる者(SOGS5点以上)におけるギャンブル等依存症に対する認識】

ギャンブル等依存症に対する認識に関して、ギャンブル等依存が疑われる者の群とそうでない群で比較したところ、有意差はなかった。(図表45)

図表45 ギャンブル等依存症について「知っている」と回答した者の割合【SOGS得点区分比較】

			ギャンブル等依存症は病気である	ギャンブル等依存症は回復できる	ギャンブル等依存症になるのは意志の問題ではない	ギャンブル等依存症のことで相談できる窓口がある
SOGS得点	5点未満	人数	5,022	3,126	2,510	3,238
		割合	(84.8%)	(53.4%)	(43.1%)	(55.0%)
		有効回答者	5,925	5,852	5,822	5,884
5点以上		人数	93	71	52	71
		割合	(80.2%)	(61.2%)	(44.8%)	(61.7%)
		有効回答者	116	116	116	115

※集計から除外：問40で無回答、SOGS(問21～34)に回答不備(n=165)

## 8 調査結果のまとめ

### はじめに

大阪府こころの健康総合センターにおいては、令和2年度、令和4年度にギャンブル等依存症に関する実態を把握するための調査<sup>1) 2)</sup>を実施している。今年度実施した調査においては、令和2年度、令和4年度に実施した調査と、調査対象者や調査手法について大きな変更はないものの、調査内容を精査し、調査項目数を減らし、調査票の見やすさなど、回収率向上に向け工夫を行った。

大阪府では、第2期大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画(令和5年度からの3年計画)<sup>3)</sup>において、ギャンブル等依存症対策を総合的かつ計画的に推進することで、府民の健全な生活の確保を図るとともに、府民が安心して暮らすことができる社会の実現に寄与することを目標とし、2つの指標を設定した。1つめの指標は、「ギャンブル等依存が疑われる人等の割合(SOGs3点以上)」の低減、2つめの指標は、「ギャンブル等依存症は病気であることを知っている」と回答した府民の割合」の増加であり、本調査結果を基に、評価することとしている。

今年度実施した調査では、回収率が36.9%で、令和4年度調査の21.6%と比べて回収率が上がった。また、回答者の年齢分布に変化が見られ、令和4年度調査では、70歳代の回答が一番多かったが、今年度実施した調査では、50歳代の年齢層の回答が一番多く、回答者の年齢層の分布に違いが見られた。そのため、過去の調査と今年度調査の結果を比較検討するには、これらの違いを考慮する必要がある。

今回の調査の結果の概要を以下にまとめる。

### (1)ギャンブル等行動

男性の87.1%、女性の65.8%が、生涯にギャンブル等の経験があり、過去1年間にギャンブル等経験のある者は、男性の47.8%、女性の23.6%であった。年代別では、過去1年間でギャンブル等の経験のある割合が最も高いのは50歳代(50～59歳)であった。

ギャンブル等の種類では、過去1年間で最も経験した者が多かったのは宝くじ(スクラッチ、ロト等)であり、パチンコがその次に多かった。過去1年間に最もお金を使ったギャンブル等の種類は、男女とも宝くじ(スクラッチ、ロト等)が最多で、パチンコが次に多かった。

### (2)家族や重要な他者のギャンブル等問題

家族や重要な他者にギャンブル等問題があったと回答したのは、全体の18.2%(男性14.0%、女性21.5%)であり、男女とも「父親」にギャンブル等問題があったという回答が最多であったが、男性では「兄弟姉妹」が次ぎ、女性では「配偶者」が次に多かった。

家族や重要な他者のギャンブル等問題から受けた影響として、男女とも「浪費、借金による経済的困難が生じた」が最多であった。

### (3)ギャンブル等依存が疑われる者

SOGs5点以上で過去1年間にギャンブル等依存が疑われる者(以下、「過去1年間にギャンブル等依存が疑われる者」という。)は、全体で1.8%、男性が3.6%、女性が0.4%であった。年齢調整後の割合は、全体で2.0%(95%信頼区間1.7%～2.3%)、男性3.8%(95%信頼区間3.1%～4.5%)、女性0.4%(95%信頼区間0.2%～0.6%)であった。また、SOGs3～4点で過去1年間にギャンブル等依存のリスクがある者は、年齢調整後の割合で、全体で1.9%(95%信頼区間1.6%～2.2%)、男性3.4%(95%信頼区間2.8%～4.0%)、女性0.6%(95%信頼区間0.3%～0.9%)であった。

なお、PGSI8点以上で、過去1年間にギャンブル等依存が疑われる者は、全体で 2.0%、年齢調整後は 2.1% (95%信頼区間 1.7%~2.5%)であった。

性差については、過去1年間でギャンブル等依存が疑われる者は、男性101名、女性15名、PGSI8点以上は、男性113名、女性12名で、男性が多かった。

国内の過去のギャンブル等依存症の実態調査は、令和2年度に久里浜医療センターによって実施されている<sup>4)</sup>。この調査は、全国の市区町村に居住する満18歳以上75歳未満の日本国籍を有する者17,955人を対象として、自記式により実施した調査である。この調査において、過去1年間にギャンブル等依存が疑われる者は、全体で、2.1%、男性が3.6%、女性が0.7%であった。年齢調整後の割合は、全体で2.2% (95%信頼区間1.9%~2.5%)、男性3.7% (95%信頼区間3.2%~4.4%)、女性0.7% (95%信頼区間0.4%~1.0%)であった。

一方、今年度大阪府で実施した調査を、対象を75歳未満に限定し集計したところ、過去1年間にギャンブル等依存が疑われる者は、全体で2.0%、男性が3.9%、女性が0.5%であった。年齢調整後の割合は、全体で2.2% (95%信頼区間1.8%~2.6%)、男性4.0% (95%信頼区間3.2%~4.8%)、女性0.4% (95%信頼区間0.1%~0.7%)であった。過去1年間にギャンブル等依存が疑われる者の年齢調整後の全体の割合は、国の調査と今年度大阪府で実施した調査では、同程度であった。

なお、SOGS5点以上を示す者は、DSM5による診断基準を満たすものより多いと言われており、SOGS5点以上の者が必ずしもギャンブル等依存症を意味するわけではないとする調査<sup>5)</sup>がある。

#### (4)ギャンブル等関連問題

##### ① 飲酒問題

飲酒問題を AUDIT-C で評価したところ、全体で 29.6%、男性が 36.6%、女性が 24.0%に何らかのアルコール問題があるとされた。過去1年間でギャンブル等依存が疑われる者の群とそうでない群と比較したところ、そうでない者では飲酒問題があるのは 23.3%だったが、ギャンブル等依存が疑われる者では 55.0%と有意に高い割合であった。

##### ② 喫煙

喫煙率を過去1年間でギャンブル等依存が疑われる者の群とそうでない群と比較したところ、そうでない者では 13.7%が喫煙者であったが、ギャンブル等依存が疑われる者では 32.5%と有意に高い割合であった。

##### ③ 抑うつ、不安

K6を用いて過去1か月の抑うつ・不安の強さを評価したところ、過去1年間でギャンブル等依存が疑われる者の群はそうでない群と比較して、有意に重度のうつ・不安障害が疑われた。

##### ④ 希死念慮

今までに自殺を考えたことがある者の割合を過去1年間でギャンブル等依存が疑われる者の群とそうでない群と比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者は有意に割合が高かった。

#### (5)「家族や重要な他者のギャンブル等問題のある(あった)者」と抑うつ、不安との関連

「家族や重要な他者のギャンブル等の問題の有無」と「抑うつ・不安」との関連を検証した。

家族や重要な他者のギャンブル等の問題がある(あった)人の有無でみると、K6 5点以上の割合は、「いない」(30.1%)より「いる」(40.6%)の方が有意に高かった。

#### (6)ギャンブル等依存症対策の認知度とギャンブル等依存症に対する認識

##### ① ギャンブル等依存症対策の認知度

ギャンブル等依存症対策については、(a)本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み、(b)本人・家族の申請により競馬・競輪・競艇・オートレースの入場が制限される仕組み、(c)本人が申請することにより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組みといった、ギャンブル等依存症対策の認知度を

---

調査した。

知っているとは回答した者の割合は、全体で(a)9.3%、(b)7.2%、(c)11.1%といずれも低い割合であったが、過去1年間でギャンブル等依存が疑われる者の群はそうでない群と比べ、「知っている」と回答した割合が有意に高かった。

## ② ギャンブル等依存症に対する認識

ギャンブル等依存症については、(a)ギャンブル等依存症は病気である、(b)ギャンブル等依存症は回復できる、(c)ギャンブル等依存症になるのは意志の問題ではない、(d)ギャンブル等依存症のことで相談できる窓口がある、の4項目について調査した。

知っているとは回答した者の割合は、全体で(a)80.3%、(b)50.1%、(c)40.3%、(d)51.9%で、過去1年間でギャンブル等依存が疑われる者の群はそうでない者の群と比べると、(a)・(c)では差は見られなかったが、(b)・(d)ではギャンブル等依存が疑われる者で認知度が高かった。

また、年代別でみると、(a)・(c)・(d)は、30歳代で「知っている」と回答した割合が最も高く、年代が上がるにつれて低下している。(b)は若年層ほど「知っている」と回答した割合が高かった。

## おわりに

本調査のみで、大阪府民におけるギャンブル等依存が疑われる者の実態及びギャンブル等依存症の関連問題の実態について結論づけることは難しく、今後もデータを蓄積し、長期的な観点から実態を把握することが望ましいと考える。

## 謝辞

最後に、本調査のためにご協力をいただきました全ての方々に深くお礼を申し上げますとともに、今後の調査にもご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

## 参考資料

- 1) 令和2年度実施「ギャンブル等と健康に関する調査」報告書(大阪府)
- 2) 令和4年度実施「健康と生活に関する調査」報告書(大阪府)
- 3) 第2期大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画 令和5年3月策定
- 4) 令和2年度 依存症に関する調査研究事業「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」報告書  
(独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター)
- 5) Goodie AS, MacKillop J, Miller JD, Fortune EE, Maples J, Lance CE, Campbell WK: Evaluating the South Oaks Gambling Screen with DSM-IV and DSM-5 criteria: Results from a diverse community sample of gamblers. *Assessment*, 20(5):523-531, 2013

## 巻末資料

### (1)「健康と生活に関する調査」検討会議委員名簿(五十音順 敬称略)

委員名	所属	備考
今村 知明	公立大学法人 奈良県立医科大学公衆衛生学講座 教授	学識経験者
岩田 和彦	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪精神医療センター 院長	依存症治療拠点機関
小原 圭司	島根県立心と体の相談センター 所長	関係行政機関
滝口 直子	大谷大学 社会学部 名誉教授	学識経験者
野田 龍也	公立大学法人 奈良県立医科大学公衆衛生学講座 准教授	学識経験者

### (2)全国および他府県市のギャンブル等依存症にかかる実態把握調査結果

	大阪府			全国		他の県市		
	R5調査(今回の調査)	R4調査	R2調査	全国調査(R2)*1 結果報告	全国調査(H29)*2 中間とりまとめ	長崎県(R2)*3 結果報告	神奈川県(R1)*4 速報版	横浜市(R1)*5 結果報告
実施主体	大阪府 こころの健康 総合センター	大阪府 こころの健康 総合センター	大阪府 こころの健康 総合センター	久里浜医療センター ※厚生労働省令和2年度 依存症に関する調査研究 事業	日本医療研究開発機構 (AMED) ※久里浜医療 センターに委託	長崎県	神奈川県	横浜市
調査方法	自記式もしくは WEB入力による アンケート	自記式もしくは WEB入力による アンケート	自記式もしくは WEB入力による アンケート	自記式もしくは WEB入力による アンケート	面接調査	自記式アンケート	自記式アンケート	面接調査
調査対象者	18,000名	18,000名	5,000名	17,955名	10,000名	6,000名	6,750名	3,000名
対象者の選択方法	大阪市・堺市を含む 大阪府内の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上)	大阪市・堺市を含む 大阪府内の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上)	大阪市・堺市を含む 大阪府内の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上)	全国の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上75歳未満の 日本国籍を有する者)	全国の住民基本台帳 より無作為抽出	長崎県内の住民基本台帳 より無作為抽出 (18歳以上)	横浜市を除く県内の 住民基本台帳より 無作為抽出 (18歳以上75歳未満)	横浜市内の 住民基本台帳より 無作為抽出 (18歳以上75歳未満)
回答者数	6,639名 (回収率36.9%)	3,886名 (回収率21.6%)	1,583名 (回収率31.7%)	8,469名 (回収率47.2%)	4,685名 (回収率46.9%)	2,045名 (回収率34.0%)	2,687名 (回収率39.8%)	1,263名 (回収率42.1%)
うち有効数	6,616名 (回収率36.8%)	3,785名 (回収率21.0%)	1,552名 (回収率31.0%)	8,223名 (回収率45.8%)	4,685名	2,010名 (回収率33.5%)	2,257名 (回収率33.4%)	1,263名
過去1年以内に ギャンブル等依存が 疑われる者 (SOG5 5点以上)※	2.0%(1.7~2.3%) (116名/6,349名)	1.9%(1.5~2.3%) (64名/3,683名)	1.3%(0.8~2.0%) (22名/1,500名)	2.2%(1.9~2.5%) (165名/7,985名)	0.8%(0.5~1.1%) (32名/4,685名)	2.1%(1.5~2.8%) (41名/2,010名)	0.8%(0.4~1.2%) (16名/2,257名)	0.5%(0.3~1.1%) (7名/1,263名)

※%は年齢調整後の数値。人数は年齢調整前の実数

※大阪府の調査はR5より年齢に無回答・性別にその他、答えたくない、無回答も有効票として取り扱った。

- \* 1 松下幸生, 新田千枝, 遠山朋海; 令和2年度 依存症に関する調査研究事業「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」, 2021年
- \* 2 樋口進、松下幸生: 国内のギャンブル等依存に関する疫学調査(全国調査結果の中間とりまとめ)  
([https://kurihama.hosp.go.jp/about/pdf/info\\_20171004.pdf](https://kurihama.hosp.go.jp/about/pdf/info_20171004.pdf)) (2023年12月21日アクセス)
- \* 3 長崎県: 令和2年度 長崎県におけるギャンブル等の問題に対する意識や行動傾向の調査 調査A 一般県民を対象とした「長崎県におけるギャンブル等の問題に対する意識や行動傾向の実態調査」  
(<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2022/01/1641619443.pdf>) (2023年12月21日アクセス)
- \* 4 神奈川県: 県内のギャンブル等依存症の実態調査の速報について  
(<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/70404/07chousakekka.pdf>) (2023年12月21日アクセス)
- \* 5 横浜市都市整備局: 横浜市民に対する娯楽と生活習慣に関する調査(調査結果の取りまとめ)  
([https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/toshi/2020/20200410.files/0004\\_20200409.pdf](https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/toshi/2020/20200410.files/0004_20200409.pdf)) (2023年12月21日アクセス)

### (3)調査票(次頁)

ID	
----	--

PASS	IDと同じ
------	-------

※ このIDは、重複した回答がないかを確認するためのものであり、あなたの個人情報と紐づけたものではありません。

# 「健康と生活に関する調査」アンケート

## 調査の流れ

### 1 調査のご案内(本資料)

- 送付物：① 府民の「健康と生活に関する調査」について  
② 「健康と生活に関する調査」インターネット回答のご案内  
③ 「健康と生活に関する調査」アンケート  
④ アンケート用紙返送用封筒(紙回答用)

### 2 アンケートにご回答

このアンケート用紙または、インターネット(スマートフォン、パソコンなど)でご回答ください。

### 3 アンケートのご提出

ご提出の方法は、以下からお選びいただけます。

- 郵送で提出(最寄りのポストへご投函ください)
- インターネット(スマートフォン、パソコンなど)で回答

#### ① 郵送による回答:令和5年10月31日(火)までに

記入済みのこのアンケート用紙を、同封の返信用封筒(切手不要)に入れてご投函ください。

#### ② インターネット回答:令和5年10月31日(火)23時59分までに

(スマートフォン・パソコン)

別紙「インターネット回答のご案内」をご参照の上、スマートフォンやパソコンからご回答ください。

### 4 アンケートの集計

株式会社エム・オールビジネスが行います。

### 5 アンケート結果の公表

アンケートの結果は、対象者全体をまとめた形で集計します。

調査報告書は「大阪府こころの健康総合センター」のホームページで公開いたします。

(令和6年3月末公開予定)

これまでの調査結果も公開されていますので、ぜひご覧ください。

ホームページ:<http://kokoro-osaka.jp/>



ご回答いただく前にお読みください。

- このアンケートは、匿名(無記名)です。個人が特定されることはありません。
- このアンケートへの回答は、あなたの自由意思によるものです。「答えたくない質問」や「わからない質問」、「負担を感じる質問」には答えなくても問題ありません。
- ご回答は、ボールペン(黒や青)でお願いいたします。
- 質問をよく読んで、あてはまる番号に○(インターネット回答の場合は選択)をするか、数字を記入(インターネット回答の場合は入力)してください。
- あなたの回答によって、次の質問が変わる項目がありますので、矢印や説明文に従って、質問項目を確認してください。
- あなたの回答は、全体を集計する形でまとめられて、今後の施策に活かすため基礎資料として活用します。ぜひ、回答へのご協力をよろしくお願ひします。

# 「健康と生活に関する調査」アンケート

最初に、あなたのことについて、質問します。

問1 あなた(お送りした封筒のあて名のご本人)の性別を教えてください。(○は1つ)

- 1 男性      2 女性      3 その他      4 答えたくない

問2 あなたの年齢を教えてください。(□に数字を記入)

満    歳

問3 現在のお住まいと一緒に暮らしている方は、あなたご自身を含めて何人いますか。(□に数字を記入)

人 (一人暮らしの場合は、1人とお答えください)

問4 現在のあなたの職業を教えてください。(○は1つ)

- 1 自営・自由業者・経営者(家族従業を含む)      5 家事専業(専業主婦・専業主夫)  
2 勤め(正社員・正職員)      6 無職(求職中、失業中、進路未定を含む)  
3 勤め(契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト)      7 無職(退職者、今後就業予定はない)  
4 学生      8 その他( )

問5 あなたの税込み年収は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。(○は1つ)

- 1 1円以上～100万円未満      7 800万円以上～1,000万円未満  
2 100万円以上～200万円未満      8 1,000万円以上～1,200万円未満  
3 200万円以上～300万円未満      9 1,200万円以上～1,500万円未満  
4 300万円以上～400万円未満      10 1,500万円以上  
5 400万円以上～600万円未満      11 収入なし  
6 600万円以上～800万円未満      12 わからない

問6 あなたの最終学歴を教えてください。(○は1つ)

- 1 中学校 卒業      6 大学 中退  
2 高校・高専 中退      7 大学 卒業  
3 高校・高専 卒業      8 大学院 中退  
4 短大・専門学校 中退      9 大学院 修了  
5 短大・専門学校 卒業      10 その他( )

ここからは、あなたのからだの健康、生活習慣について質問します。

問7 あなたはアルコールが含まれる飲料をどのくらいの頻度で飲みますか。(○は1つ)

- 1 全く飲まない                      2 1か月に1回以下                      4 1週間に2~3回  
3 1か月に2~4回                      5 1週間に4回以上

問8 飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。下の「1 全く飲まない」~「6 10ドリンク以上」からあてはまる番号を1つ選んでください。(○は1つ)

※ 下記の【ドリンク換算表(めやす)】を参考にお答えください。

- 1 全く飲まない                      3 3~4ドリンク                      5 7~9ドリンク  
2 1~2ドリンク                      4 5~6ドリンク                      6 10ドリンク以上

問9 1度に6ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。(○は1つ)

- 1 ない                      2 1か月に1回未満                      4 1週間に1回  
3 1か月に1回                      5 毎日あるいはほとんど毎日

問10 あなたの喫煙(紙巻きタバコ、電子タバコ、加熱式タバコ含む)について、あてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ)

- 1 吸ったことはない                      2 以前吸っていたが現在はやめた                      3 今も吸っている

【ドリンク換算表(めやす)】

	ビール(5%) 中瓶・ロング缶 500ml	缶チューハイ (7%) 350ml	ワイン (12%)	日本酒 (15%)	焼酎(25%) 水割/湯割	ウイスキー (40%)
2ドリンク	1本	1本	グラス1.5杯 (180ml)	0.8合 (160ml)	1杯 100ml	ダブル1杯 (62.5ml)
4ドリンク	2本	2本	ハーフボトル (375ml)	1.6合 (320ml)	2杯 200ml	ダブル2杯 (125ml)
6ドリンク	3本	3本	グラス5杯 (600ml)	2.4合 (480ml)	3杯 300ml	ダブル3杯 (187.5ml)
8ドリンク	4本	4本	フルボトル1本 (750ml)	4合 (720ml)	4杯 400ml	ダブル4杯 (250ml)
10ドリンク	5本	5本	ハーフボトル3本 (1,125ml)	5合 (900ml)	5杯 500ml	ダブル5杯 (312.5ml)

1ドリンクとは、アルコール飲料に含まれる純アルコール10gのこと

※ 缶チューハイ・ワイン・日本酒  
はおおよその分量です。

純アルコールの量(g) = アルコール飲料の量(ml) × アルコール濃度(度数または% ÷ 100) × アルコール比重(0.8)  
(例) 5%のビールロング缶一本(500ml)の場合 500ml × 0.05 × 0.8 = 20g → 2ドリンク

【飲酒量のドリンク換算めやす例】

- ① ビールロング缶2本とワインハーフボトル(375ml)の場合 → 4ドリンク + 4ドリンク = 8ドリンク  
② チューハイ3本とウイスキーダブル2杯の場合 → 6ドリンク + 4ドリンク = 10ドリンク



問14 前の【問13】で、回答されたギャンブル等について、  
過去1年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。「1 過去1年間全くしていない」、「2 週1回未満」、「3 週1回以上」からあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(それぞれヨコに○は1つ)

問15 【問14】で「3 競馬」～「8 スポーツ振興くじ」を過去1年間にしたことがあると回答した方にお尋ねします。  
過去1年間で、主にどこで券を購入しましたか。ギャンブル等ごとに、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

	【問14】 【問13】で回答したギャンブル等について過去1年間の頻度			【問15】 過去1年間で主に購入した場所	
	全くしていない 過去1年間	週1回未満	週1回以上	(オンライン)で購入 主にインターネット	売り場(場外を含む)で購入 主にギャンブル場又は
(1) パチンコ	→ 1	2	3		
(2) パチスロ	→ 1	2	3		
(3) 競馬	→ 1	2	3	→ 1	2
(4) 競輪	→ 1	2	3	→ 1	2
(5) 競艇(ボートレース)	→ 1	2	3	→ 1	2
(6) オートレース	→ 1	2	3	→ 1	2
(7) 宝くじ (スクラッチ、ロト、ナンバーズ、ビンゴ5、 着せかえクーちゃん、クイックワン等を含む)	→ 1	2	3	→ 1	2
(8) スポーツ振興くじ (toto、BIG、WINNER など)	→ 1	2	3	→ 1	2
(9) インターネットを使ったギャンブル (3～8で、券などの購入のためにインターネ ットを使ったものを除く)	→ 1	2	3		
(10) 証券の信用取引、先物取引市場 への投資、FX ※仕事など業務で行うものは除く	→ 1	2	3		
(11) 海外のカジノ ※実際の施設で行うもの	→ 1	2	3		
(12) その他のギャンブル	→ 1	2	3		

※【問16】～【問35】は、【問13】で「1 パチンコ」～「12 その他のギャンブル」のいずれかに○をつけた方  
 (これまでにギャンブル等をしたことがある方)にお伺いします。

問16 初めてギャンブル等をしたのは何歳でしたか。(口に数字を記入)

		歳
--	--	---

問17 あなたが、少なくとも月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブル等をするようになったのは何歳でしたか。(口に数字を記入)

※ 月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブル等をしたことがない場合は、口に×とご記入ください。

		歳
--	--	---

問18 過去1年間で、最もお金を使った(つぎ込んだ)ギャンブル等はどれですか。  
 1つ選んで○をつけてください。(○は1つ)

- |   |   |
|---|---|
| 1 パチンコ<br>2 パチスロ<br>3 競馬<br>4 競輪<br>5 競艇(ボートレース)<br>6 オートレース<br>7 宝くじ(スクラッチ、ロト、ナンバーズ、<br>ビンゴ5、着せかえクーちゃん、<br>クイックワン等を含む) | 8 スポーツ振興くじ(toto、BIG、WINNER など)<br>9 インターネットを使ったギャンブル<br>(3～8で、券などの購入のためにインターネットを使ったものを除く)<br>10 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX<br>※仕事など業務で行うものは除く<br>11 海外のカジノ ※実際の施設で行うもの<br>12 その他のギャンブル( )<br>13 過去1年間はギャンブル等を全くしていない |
|---|---|

問19 過去1年間、1か月あたりギャンブル等にどのくらいお金をかけていますか。  
 勝ったお金は含めずにお答えください。(口に数字を記入)

※ 過去1年間はギャンブル等をしていない場合は0円と回答してください。

億	千万	百万	十万	万	千	百	十	円

問20 以下の9つの質問について、過去1年間のあなたの状況に最もよくあてはまる番号を、「0 全くない」～「3 ほとんどいつも」から1つ選んでください。  
(それぞれ○は1つ)

過去1年間に	全くない	ときどき	たいていの場合	ほとんどいつも
① どのくらいの頻度で、失っても本当に大丈夫な金額以上のお金を賭けましたか	0	1	2	3
② どのくらいの頻度で、同じだけの興奮の感覚を得るために、それまでよりも多くの金額をギャンブル等に費やさなければなりませんでしたが	0	1	2	3
③ どのくらいの頻度で、ギャンブル等で負けた金額を取り返そうと別の日にギャンブル等をしに戻りましたか	0	1	2	3
④ どのくらいの頻度で、ギャンブル等をするお金を得るために借金をしたり、物を売ったりしましたか	0	1	2	3
⑤ どのくらいの頻度で、自分がギャンブル等に関して問題を抱えているかもしれないと感じましたか	0	1	2	3
⑥ どのくらいの頻度で、あなたがその通りだと思うかどうかに関わらず、周囲の人々があなたがギャンブル等をするのを批判したり、あなたがギャンブル等の問題を抱えていると言ってきたりしましたか	0	1	2	3
⑦ どのくらいの頻度で、自身のギャンブル等のやり方や、ギャンブル等の結果として起こることについて、悪いとか申し訳ないと感じましたか	0	1	2	3
⑧ どのくらいの頻度で、ギャンブル等が健康問題を引き起こしましたか。これにはストレスや不安も含まれます	0	1	2	3
⑨ どのくらいの頻度で、ご自身のギャンブル等によって、あなたやご家庭に金銭的な問題が引き起こされましたか	0	1	2	3

問21 過去1年間で、ギャンブル等で負けた時、負けた分を取り戻すために、また別の日にギャンブル等をしたことがありますか。最も近いものを1つ選んでください。  
(○は1つ)

- |                          |                 |
|--------------------------|-----------------|
| 1 全くそのようなことをしたことはない      | 3 負けた時はたいていそうした |
| 2 時々そうした(負けた回数の半分はしていない) | 4 負けた時はいつもそうした  |

問22 過去1年間に、実際はギャンブル等で負けたのに、勝っていると家族や友人、その他の人に伝えたことがありますか。最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 1 いいえ、一度もない | 2 はい、でも負けた回数の半分もない |
|             | 3 はい、たいていそうだった     |

問23 過去1年間で、自分にギャンブル等の問題があると思っただけがありますか。  
(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問24 過去1年間で、意図していた以上にギャンブル等をしたことがありますか。  
(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問25 過去1年間で、あなたのギャンブル等についてまわりの人から非難されたことがありますか。(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問26 過去1年間で、自分のギャンブル等のやり方や、ギャンブル等によって生じたことについて罪悪感を感じたことがありますか。(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問27 過去1年間で、実際にはやめられないとわかっているにもかかわらず、ギャンブル等をやめたいと思ったことはありますか。(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問28 過去1年間で、ギャンブル等をしていることを配偶者や子ども、その他あなたにとって大事な人に知られないように、ギャンブル等の券や宝くじ、ギャンブル等に使うための資金などを隠したことがありますか。(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問29 過去1年間で、お金の使い方について、同居している人と口論になったことがありますか。(○は1つ)

1 いいえ →【問31】へ

2 はい →【問30】へ

※【問30】は、【問29】で「2 はい」と答えた方にお伺いします。

問30 そのお金に関する口論の原因が、主にあなたのギャンブル等だったことがありますか。(過去1年間に起こった口論)(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問31 過去1年間に、誰かからお金を借りたのに、ギャンブル等のために返せなくなったことがありますか。(○は1つ)

- 1 はい 2 いいえ

問32 過去1年間に、ギャンブル等のために、仕事や学業の時間を浪費したことがありますか。(○は1つ)

- 1 はい 2 いいえ

問33 過去1年間で、ギャンブル等のためか、ギャンブル等による借金を返すためにお金を借りた経験がありますか。(○は1つ)

- 1 ある →【問34】へ 2 ない →【問35】へ

※【問34】は、【問33】で「1 ある」と答えた方への質問です。

問34 過去1年間に、誰またはどこから借りましたか。次の(a)～(i)のそれぞれについて、「はい」か「いいえ」でお答えください。(それぞれ○は1つ)

過去1年間に	はい	いいえ
(a) 家計から借りましたか	1	2
(b) 配偶者から借りましたか	1	2
(c) その他の親戚から借りましたか	1	2
(d) 銀行、ローン会社、信用組合等の金融機関、サラ金などの貸金業者等から借りましたか	1	2
(e) クレジットカードで借りましたか	1	2
(f) 闇金融から借りましたか	1	2
(g) 株券、債券、保険を換金して借りましたか	1	2
(h) 自分または家族の財産を処分して借りましたか	1	2
(i) 当座預金口座から(不正な小切手を発行した)借りましたか	1	2

問35 あなたはこれまでに、あなた自身のギャンブル等のことで、だれか(どこか)に相談したことはありますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。(○はいくつでも)

- |   |                        |
|---|------------------------|
| 1 家族や友人   | 4 医療機関                 |
| 2 学校の先生や学生相談窓口  | 5 法律の専門家(弁護士、司法書士等)    |
| 3 公的な相談機関   | 6 民間の相談機関(無料電話相談、回復施設) |
| (例: 市区町村、保健所、精神保健福祉センター(大阪府<br>こころの健康総合センター・大阪市こころの健康セ<br>ンター・堺市こころの健康センター)など             ) | 7 自助グループ               |
|   | 8 その他 ( )              |
|   | 9 だれ(どこ)にも相談したことはない    |

ここからは全員への質問です。  
ギャンブル等をしたことがない方もお答えください。

問36 次にあげる人の中に、ギャンブル等の問題がある(あった)人はいますか。今はなくとも過去にギャンブル等の問題があった人についても○をつけてください。  
(○はいくつでも)

- |         |                    |
|---------|--------------------|
| 1 父親    | 5 配偶者(内縁関係を含む)     |
| 2 母親    | 6 子ども              |
| 3 兄弟姉妹  | 7 恋人・交際相手          |
| 4 祖父・祖母 | 8 上記以外のあなたにとって大事な人 |
|         | 9 いない → 問38へ       |

問37へ

※ 問37は、問36で「1 父親」～「8 上記以外のあなたにとって大事な人」と答えた方にお伺いします。

問37 あなたは、問36で答えた人のギャンブル等の問題から、次のような影響を受けたことがありますか。影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

- |                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| 1 浪費、借金による経済的困難が生じた | 7 脅しや言葉の暴力を受けた          |
| 2 借金の肩代わりをした        | 8 ギャンブル等をやめられない人に怒りを感じた |
| 3 金品を盗まれた           | 9 子どもへの暴力や不適切な養育をしてしまった |
| 4 殴る・蹴るなどの暴力を受けた    | 10 アルコール問題(飲酒運転を含む)が生じた |
| 5 家庭不和・別居・離婚を経験した   | 11 あてはまるものはない           |
| 6 うつ状態になった          |                         |

問38 もし、あなた自身や、あなたの重要な関係者(家族や友人、同僚、交際相手など)がギャンブル等のことで困りごとを抱えたら、だれ(どこ)に相談しますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。(○はいくつでも)

- |  |                        |
|--|------------------------|
| 1 家族や友人  | 4 医療機関                 |
| 2 学校の先生や学生相談窓口   | 5 法律の専門家(弁護士、司法書士等)    |
| 3 公的な相談機関  | 6 民間の相談機関(無料電話相談、回復施設) |
| 例: 市区町村、保健所、精神保健福祉センター(大阪府<br>こころの健康総合センター・大阪市こころの健康セ<br>ンター・堺市こころの健康センター)など |                        |
|  | 7 自助グループ               |
|  | 8 その他 ( )              |
|  | 9 だれ(どこ)にも相談しない        |

**問39** ギャンブル等依存症対策に関する、下記の①～③の仕組みについて、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

ギャンブル等依存症とは、ギャンブル等にのめり込むことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態のことをいいます。

	知っている	知らない
① 本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み	1	2
② 本人や家族の申請により、競馬・競輪・競艇(ボートレース)・オートレースの入場が制限される仕組み	1	2
③ 本人が申請することにより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組み	1	2

**問40** ギャンブル等依存症について知っていることについて、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選んで○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

	知っている	知らない
① ギャンブル等依存症は病気である	1	2
② ギャンブル等依存症は回復できる	1	2
③ ギャンブル等依存症になるのは意志の問題ではない	1	2
④ ギャンブル等依存症のことで相談できる窓口がある	1	2

以上で質問は終わります。

記入漏れはありませんか？

ご確認いただけましたら、同封の返信用封筒に入れて、令和5年10月31日(火)までにご投函ください。

※返信用封筒にお名前やご住所の記入の必要はありません。

※インターネットで回答いただいた方は、アンケート用紙のご返送は不要です。

最後までご協力いただき、ありがとうございました。

発行 大阪府こころの健康総合センター

〒558-0056

大阪市住吉区万代東3丁目1番 46 号

TEL 06(6691)2811 / FAX 06(6691)2814

ホームページアドレス <http://kokoro-osaka.jp>



令和 6 年 3 月

本調査は、令和 5 年度依存症対策強化事業(大阪府・大阪市共同事業)において実施しました。